

ア！安全・快適街づくりニュース

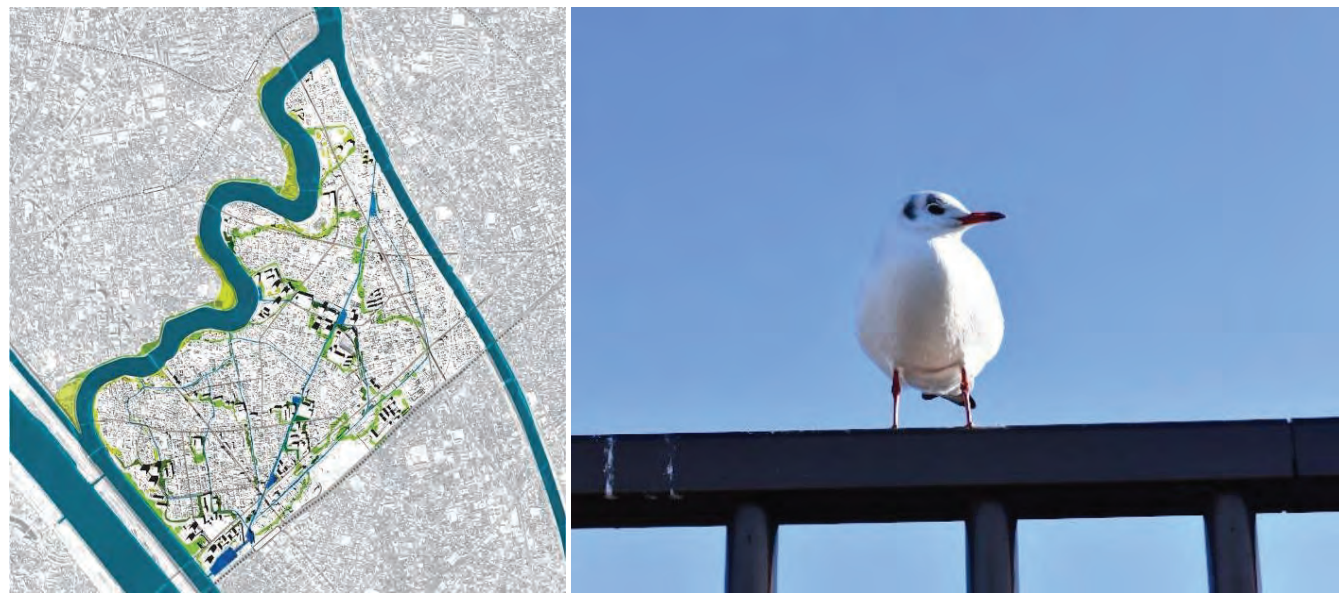
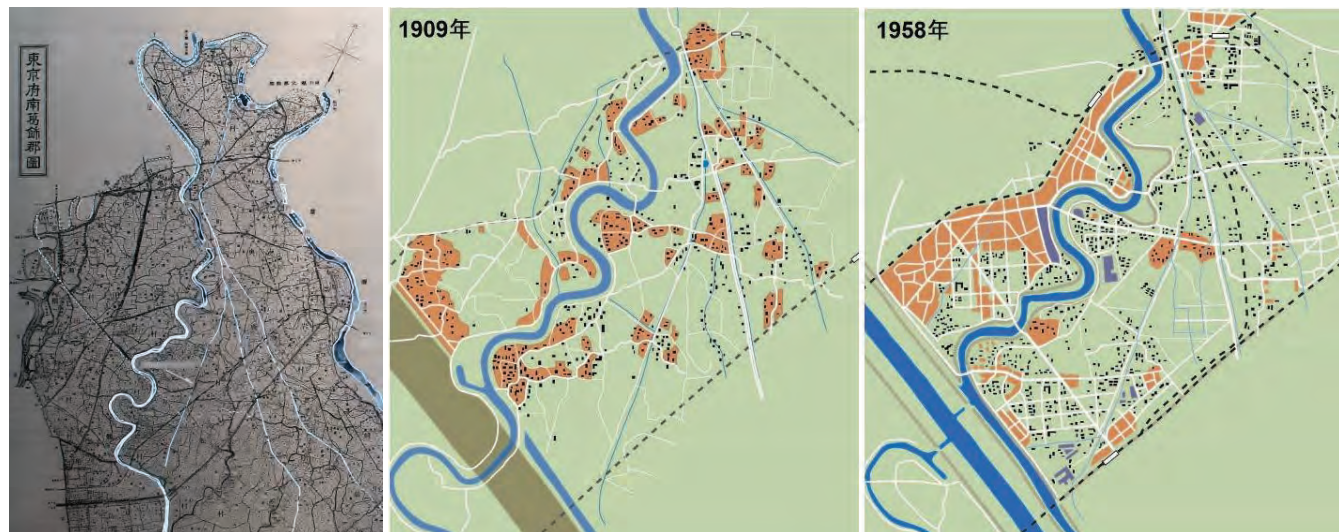
2026年3月 vol.29+30 2022・23年度総集編

人を育み川 中川

朝日味香
山崎山
夕見染香
スカイツリー
老舗ノ千里
9はむ街
森羅万象
万葉の葉ら
人を育み川
中川
お重 石川金治



特定非営利活動法人 ア！安全・快適街づくり

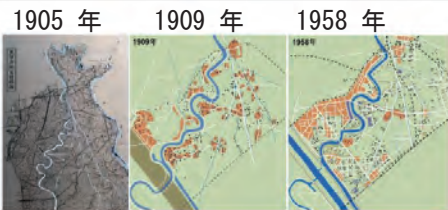


表紙・裏表紙の写真の解説



荒川の干涸、スカイツリーと京成陸橋
(撮影：古川)

中川七曲りの変遷 左から



中川テラスに
時々現れる
ユリカモメ
(撮影：古川)



中川テラスより新小岩方面を望む
(撮影：古川)



(撮影：古川)



中川の土手でとれたツクシ

目次

NPO ア！安全・快適街づくりニュース 29 号・30 号合本	4
巻頭言（街づくりニュース 29 号・30 号合本）	成戸寿彦 4
NPO ア！安全・快適街づくりニュース 29 号	6
はじめに	6
街づくりニュース 29 号 巻頭言.....	成戸寿彦 6
令和 4 年度の活動結果について.....	宇賀俊夫 8
第 15 回輪中会議	11
第 15 回輪中会議 リーフレット.....	12
2022 輪中会議（第 15 回）開催の経緯	成戸寿彦 14
第 15 回輪中会議を振り返って.....	宇賀俊夫 16
行政から	19
川の手・人情都市「かつしか」の実現に向けて（5）	情野正彦 20
未曾有の大規模水害からの広域避難について.....	玉川俊樹 22
事務局から 2022	25
加藤先生が日本都市計画学会計画設計賞を受賞	
― 当 NPO も協力者として受賞者の一員に ―.....	宇賀俊夫 26
令和 4 年度葛飾区地域活動団体助成事業	
「親子で語り継ぐ大水害時の避難について」	増澤一朗 28
息の長い「出前授業」に向けて.....	成戸寿彦・増澤一朗 30
令和 4 年度第 2 回見学会開催報告.....	山上 忠 33

NPO ア！安全・快適街づくりニュース 30 号	34
はじめに	34
令和 5 年度の活動結果について.....	宇賀俊夫 34
第 16 回輪中会議	37
第 16 回輪中会議 リーフレット.....	38
第 16 回輪中会議 ― 2023 地域の未来を語る会 ―	成戸寿彦 40
“防災”と“地域づくり”、次世代の担い手を育成していくためには？	岸田暁郎 42
災害時の共助につなげる地域の関係づくりと防災意識の啓発.....	稲葉美哉子 43
第 16 回輪中会議ワークショップ結果報告 ― Old Soldier グループ ―....	宇賀俊夫 44
第 16 回輪中会議 ワークショップ まとめ	
グループ(A)岸田派、(B)結束隊、(C)CCC、(D)B 以外、(N)Old Soldier、(S)X 世代 ...	48
事務局から 2023	55
かつしかボランティアまつり参加レポート.....	古川 修 56
第 72 回東京都社会福祉大会で受賞	
― 受賞した地域福祉支援貢献団体 400 団体を代表し活動紹介 ―.....	宇賀俊夫 57
関東地域づくり協会助成（広域治水への交流）	
第 1 回荒川上流見学会/第 2 回荒川下流見学会報告.....	山上 忠 58
令和 5 年度葛飾区防災活動団体助成事業	
『親子で語り継ぐ浸水・親水～水害時の対応～』について.....	増澤一朗 60
うらら保育園講演会 概要報告.....	増澤一朗 61
「上平井中学校地域防災ボランティア部 学芸発表会」概要報告.....	増澤一朗 65
上平井中学校地域防災ボランティア部 「荒川上流域を訪ねる」参加報告...	増澤一朗 66
上平井中学校地域防災ボランティア部 「荒川下流域を訪ねる」参加報告...	増澤一朗 68
荒川流域防災住民ネットワーク 2023 防災アイディア交換会 参加報告	増澤一朗 69
編集担当から	72
新小岩北地区における取り組みと系譜（年表）	72
表紙の書の紹介	78

巻頭言（街づくりニュース 29 号・30 号合本）

成戸 寿彦
NPO ア！安全・快適街づくり 理事長

街づくりニュース 29 号は、昨年のうちに編集を終えて昨年度中に発行すべく努力いたしてまいりましたが、残念ながら発行までには至りませんでした。まずこのことを、改めてお詫び申し上げます。

そしてその間にも NPO としての活動を進めてまいりましたので、その後のことを 30 号としてまとめ 29 号と 30 号の合本として印刷することと致しました。

そこで 29 号に含まれている内容と 30 号に含まれている内容とを、まずここで概略整理しておきたいと思います。

- 29 号に含む内容。（執筆は 2023 年中に終え、2024 年度中に発刊）
- 第 15 回輪中会議（しんすいを地域社会で考える） 2022.10.15
 - 副読本の作成（関東地域づくり協会）
 - 区制施行 90 周年特別表彰 2022.10.31
 - 荒川の治水施設見学会（地下神殿、荒川第一調節地） 2023. 1.28
 - 都市計画学会の計画・設計賞を受賞 2023. 5.26
- 30 号に含む内容。（今回編集し、2024 年度中に発刊）
- 息の長い「出前授業」に向けて（防災団体活動助成事業）
 - 副読本の作成（防災団体活動助成事業）
 - 第 16 回輪中会議（地域の未来を語る会） 2023.10.28
 - ・ 形式が変わった経緯
 - ・ 各ファシリテーターのひとこと
 - ・ リーフレット
 - ・ ジュンさんのまとめ （ジュンさんのコメント）
 - 葛飾区ボランティアまつり 2023.11.19
 - 荒川流域防災住民ネットワーク会議 2023.11.19
 - 東京都社会福祉協議会表彰 2023.12.22
 - 関東地域づくり協会助成（広域治水への交流）
 - 広域治水（流域治水＋広域交流）への交流事業 2024. 2.10
 - ⇒ 企画内容と参加者レポート
 - 見学会（知水資料館、荒川ロックゲート） 2024. 3.24
 - ⇒ 中学生、中学生 OB 及び先生

このような流れで、2022 年の秋から 2024 年の春までの活動状況をまとめてみました。一つの巻とせず 29 号及び 30 号と分けたのは、29 号に相当する部分の執筆は原則終わっていますので、時点の正確性を期すためです。

なお時点的には 30 号に含めるべきでしたがボリュームのバランスで次号（31 号）に回したものがああります。それは「天サイ！まなぶくんⅡ」であります。

我々が、関東地域協会の援助を得て三年ほどかけて開発したこのソフトは、「近所で近助」というわかりやすいコピーとともに親しまれてきました。しかし町会単位で活用するため現段階ではすべての町会で活用いただける状況ではありません。

NPO としてもサーバーの維持管理だけでも相応の費用を要しますので、今年度はやむなく維持をしばし中断することと致しました。しかし今まで街づくりニュースの中では、一部の記述はありますが全体像を残していません。したがってこの有能なソフトについての全体像を記録として残しておくべきとの結論に達し、31 号の特集として残すことと致しました。

したがって 31 号の予告をしますと、以下の内容が中心となります。

- 31 号 （2025 年 6 月ごろ発刊）
- 第 17 回輪中会議（地域の未来を語る会） 2024. 6. 1
 - 第 18 回輪中会議（地域の未来を語る会） 2024 年度中
 - 新中川耐震補強工事現場視察 2024. 8. 8
 - あらかわ号による荒川下流域視察 2024. 8.29
 - 「天サイ！まなぶくんⅡ」の全体像と町会への活用 2019～（進行中）

NPO 設立から 22 年を経過してみますと残念ながら高齢化が進みつつありますが、幸いなことに当初中学生で教えられる側にいた学生さんが教える側になったり、また地域の皆様の活発なご協力をいただきながら活動を続けています。

NPO 自身も若返りを模索しつつその理念である行政と地域の皆様方の間をつなぐ活動を続けてまいりますので、今後とも皆様方の変らぬご支援を、よろしく願いいたします。

街づくりニュース 29 号 巻頭言

成戸 寿彦

NPO ア！安全・快適街づくり 理事長

今年の「街づくりニュース」は、NPO 設立 20 周年としての特集号としました。

ご協力くださいました皆様には心よりお礼申し上げますとともに、発行が遅れましたことをお詫びいたします。

したがいまして今号は、昨年秋の輪中地域会議に始まり新しい出前授業や副読本のことなど、前号で取り上げなかった今年の事業を含めてお届けいたします。

まず輪中会議ですが、今まで 10 年間行ってきた輪中会議をさらに発展させるために、地域に根差した各々のお立場での情報交換を中心とした従来型の輪中地域会議のほかにもう少し深掘りしたテーマに即して行う輪中会議（名称は今後考えていきます）に分けることと致しました。

そうした趣旨に沿った輪中地域会議を、今年の 10 月 15 日に新装なった「にこわ新小岩」にて行いました。当日、各々のお立場で話されたことを、今号で振り返って述べていただきます。私も、コロナ禍で行った輪中会議としての苦労話や経緯を、記録として残しておきたいと思います。

次に今年度より葛飾区において新たに作成された、新しい制度に応募して行う出前授業についてです。

従来は葛飾区の「地域活動団体事業費助成金交付要綱」に従って 10 年ほど出前授業の実績を積んでまいりました。今までお世話になったこの制度には心よりお礼申し上げますが、広範な地域活動への助成事業が対象であったため、出前授業への活用に対しては一定の限界を感じていました。

その弊害を除去した新しい「防災活動団体事業費助成金交付要綱」は出前授業に即した制度であるため利用しやすく、今後の活用を大いに期待するものがあります。

我々もこの制度をよく勉強し、出前授業以外にも活用できないかなどを含め、末永く続けられるよう取り組んでまいります。

続いて副読本について取り上げます。

昨年、関東地域づくり協会の助成を受けて出前授業のための副読本を作成しました。この取り組みについても本号で取り上げますが、今後はこれをもとにさらに発展させ、出前授業に使用するとともに家に持ち帰って「親子で語り継ぐ」ことができる内容に高めたいと考えています。

出前授業の新しい制度の枠の中で活動ができるよう、調整してまいります。

また昨年度は関東地域づくり協会からの助成を得て、荒川と中川の中流域における治水の現場を知ることを目的に埼玉県下の洪水対策施設の見学会を行いました。東新小岩町会役員、上平中学地域防災ボランティア部部員、葛飾区防災関係者、NPO スタッフ、東大研究員など 30 人余りが参加する盛況の見学会となりました。このことについても参加された皆様の感想を載せたいと思います。

さらに今年は、関東地域づくり協会の助成を受けて「広域治水への交流事業」を企画しています。荒川の上流・中流・下流といった広域に及ぶ治水に係る NPO がお互いに交流を深めることを目的としています。今まであまり気づかれなかったこうしたテーマにも、積極的に取り組んでまいります。

さらに「天サイ！まなぶくんⅡ」の町会への活用についても、深掘してまいります。

また加藤先生のご尽力で、「浸水対応型市街地構想、及び、それに至る取り組み」が都市計画学会の計画・設計賞を受賞しました。受賞者は、加藤孝明先生をはじめ塩崎由人さん・故石川金治さん・当 NPO・葛飾区・新小岩北地区連合町会です。

5 月 26 日、関係者が東京大学伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホールに集い、表彰を受けました。故石川金治さんについては、奥様のご希望で、ご自宅にお送りいたしました。

最後になりますが、今年新しい会員が二名加わりました。

お一人は東京都の関係者で、元東京都技監（都市整備局長兼務）の佐藤伸朗さんです。かつて葛飾区役所勤務の経験がおありの方で、今後の貴重な戦力です。

もう一人は地元葛飾区在住の方で、山形和子さんです。NPO には町会関係者を除いて葛飾区在住の会員は古川さんだけですので、貴重な担い手と期待しています。

このようなテーマを中心に、「街づくりニュース」を編集してまいりたいと思います。今年もよろしくご協力いただきますよう、お願いいたします。

令和 4 年度の活動結果について

宇賀 俊夫
NPO ア！安全・快適まちづくり

令和4年度もはじめはコロナの影響で3密を避けるために事務局会議はZoomによる会議が継続され、総会も会員に議案を郵送し、回答はメールあるいはFAXで連絡する形で行われました。ただ、夏を過ぎるとコロナもやや下火になってきたこともあって対面での行事を行うことも行われるようになりました。以下令和4年度の活動結果をご報告いたします。

1. 輪中会議の開催について

第15回の輪中会議は10月15日に新設された「にこわ新小岩」の多目的ホールにおいて久々に対面方式主体で開催されました。その結果地元からの参加者が多く、総計65名余の参加者となりました。第1部では東京大学教授で当NPO理事の加藤先生がからこれまでのNPOの活動のあゆみについてレビューするとともに、今後の気候変動に対応した浸水対応型市街地構想の推進を図ることが重要との話があり、次いで荒川下流河川事務所の出口所長から「近年の水害の激甚化とそれに対処するための流域治水対策」の話があり、葛飾区役所情野危機管理部長からは「浸水対応型市街地構想」の紹介と内水氾濫に対する対応の話が話題提供としてなされました。次いで第2部では各参加者からそれぞれの昨年度の活動報告とそれについての意見交換が活発に行われ盛況裡に終了しました。

本年度は今後地域防災を担っていただくコアメンバーの方々を対象としたワークショップを伴う新しい形での輪中会議を10月の26日に開催する予定です。ご期待ください。

2. 地域小学校への出前授業と中学校部活支援について

前年度に引き続き今年度も葛飾区地域活動団体事業費助成制度を利用して、地域の5つの小学校での『「親子で語り継ぐ浸水と親水」～水害時の対応～』をテーマとした出前授業や、うらら保育園の職員や園児の父母に対する中村先生による水害に対する備えについての講演を行いました。更に上平井中学地域防災ボランティア部の活動に対する今年度の支援では後述する関東地域づくり協会からの助成を受けて作成する小学生向けの出前授業の「副読本」づくりに部員やOB・OGにも参加してもらって、出前授業をより充実させるための意見を聞くことが行われました。ところで10年ほどもお世話になった地期活動団体事業費助成事業は広範な地域活動への助成事業のため、一定の限界を感じていたところ、令和5年度から葛飾区が新たに「防災活動団体助成事業」を設けたために、直ちにそれに応募し、令和5年度の助成を受けることが出来ました。そこで令和5年度からはこの制度下で地域の小学校での出前授業やうらら保育園

での水害に備える講演会、中学校の部活支援活動を進めてゆくことになります。

3. 20周年記念事業「出前授業の副読本」の作成について

前号でお知らせしたようにNPO設立20周年記念授業として小学校での出前授業の副読本を作ることし、そのために関東地域づくり協会から助成を得て作成することになりました。作成に当たっては事務局メンバーを中心に小委員会を作成し、それに出前授業の講師の方や受講経験者の大・高・中学生にも適宜参加してもらい資料集めからはじめて読本の構成を取り決め、各項目の第一次原稿を集めたうえで内容の見直しと共に全文の統一を講師の代表たる東京大学生産研研究員でNPOのアドバイザーである南貴久氏に依頼し、一応の完成を見たのでそれを成果として関東地域づくり協会に提出しました。令和5年度には内容の一層の充実を図ったうえで各小学校の担当教諭の意見も取り込んで最終稿を確定し、令和6年度に区から予算が得られれば生徒に配布することを考えています。

なお、本副読本を作成するに先立ち、令和元年の台風19号で被災した荒川中流域の東松山地区での見学と今後の対応策を伺う改や、荒川中・下流域での洪水予防策として埼玉県下設けられた春日部市の「首都圏外郭放水路（防災地下神殿）や、荒川彩湖公園・荒川第一調整池、宗岡第二横堤、秋ヶ瀬取水堰などを見学する会を開催し、新小岩地域の参加も得て情報の入手に努めました。見学会の詳細は別途本号にてご報告いたしますのでそちらをご参照ください。ここで得られた情報は副読本の作成のみならず、令和5年度に関東地域づくり協会の助成を得て実施するか『「広域治水への交流」事業』にも活用できるものと存じます。この事業は荒川上・中・下流という広域に及ぶ治水に係るNPOがお互いに交流を深めることを目的としたもので、相互の連携を深めることで災害の発生による被害の最小化を図ることが可能になると期待しています。

4. 共助支援アプリ「天サイ！まなぶくんII」の利用拡大について

令和3年度に開発された共助支援アプリ「天サイ！まなぶくんII」についてはまずモデル地区として選んだ東新小岩7丁目町会で防災訓練や子供祭り等の機会を通じて利用者の拡大を図りました。ただ、まだまだ利用者の拡大とアプリ利用の習熟が十分進んだとは言えない現状です。今後も引き続き防災訓練や子供祭りの機会を捉えて利用者の拡大とアプリの習熟に努め、その過程で必要ならアプリの改良に努めてまいりたいと考えています。この他、かつしか祭りの際に屋内のブースを借りて、「天サイ！まなぶくん」I及びIIのデモンストラーションを実施し、来場者に訴えることが出来ました。今後もこのような機会をとらえてアプリの普及に努めてまいります。

5. 日本都市計画学会の計画・設計賞受賞について

かねて加藤先生が中心となって葛飾区などと共に推し進めてきた「浸水対応

型市街地構想、およびそれに至る取り組み ―気候変動への市街地の適応（高台街づくり）の展開への布石―」が日本都市計画学会の計画・設計賞を受賞することになり、5月26日にその表彰式が東京大学伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホールでおこなわれました。表彰式には関係者として加藤先生・塩崎由人氏、新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会に加えて、故石川金治氏と NPO ア！安全・快適街づくりも受賞者の一員に加えていただき、協議会、NPO を代表して成戸理事長が賞状を受け取りました。表彰式の模様は別稿で写真と共に紹介されているのでそちらをご覧ください。

6. 20 周年記念号「街づくりニュース」28 号作成について

例年発行している街づくりニュース 28 号は NPO 創立 20 周年特集号となりました。また、輪中会議の開催も 10 周年を迎えています。これまで NPO の活動に関わっていただいた多くの方から寄稿いただきありがとうございました。できるだけ多くの方から寄稿を掲載したいとしたため、発行が大幅に遅れ、年度末ぎりぎりの発送となり申し訳ありませんでした。次号は年内に皆様のお手元に届くよう頑張っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

7. その他の活動について

今年もこの地域で計画されている新小岩公園高台化フラ前橋通りと堤防通りの平面校とそれに付随する緩傾斜堤防の建設計画、西新小岩 3 丁目地区での高規格堤防計画について情報の収集に詰めましたが、コロナ禍の影響もあっていずれも目に見える形での進展はなく、具体化されるには至らないまま推移いたしました。NPO としては引き続きこの三事業の進展に注視していく所存です。

今年度も、新しい形式での輪中会議の開催、関東地域づくり協会から助成を受けての『「広域治水」への交流事業』の推進、新たに設けられた葛飾区の「防災活動団体事業助成制度」からの助成を受けて実施する地域小学校等での出前授業・中学校部活支援など当 NPO の活動は続きます。引き続き皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



第 15 回輪中会議



第 15 回 輪中会議 リーフレット

第 15 回「輪中会議」

今回は、コロナ禍以降初めての、対面での「輪中会議」を試みます。
輪中会議は今年で 10 年を迎え、その役割は地域課題の共有、他地域との交流、最先端の知見の取得など多岐にわたるようになりました。
今回は原点に回帰し、**地域の経験・悩み・課題・情報の共有**を軸に、“親水と浸水”“ゼロメートル市街地における持続可能なまちづくり・ひとづくり”“近所で近助”など幅広く意見を交わします。



経験を共有し、地域の未来を語ろう。

■ テーマ：親水・浸水 × まちづくり・ひとづくり × 近所・近助
～ “しんすい” を地域社会で考える ～

■ 開催日時：2022 年（令和 4 年）10 月 15 日（土） 14:00～17:00

■ 主催：葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会
※ 構成メンバー：新小岩北地区連合町会、NPO ア！安全・快適街づくり、葛飾区、広域ゼロメートル市街地研究会、認定 NPO 日本都市計画家協会

■ 場所：「にこわ新小岩」2 階 多目的ホール（JR 新小岩駅北口 徒歩 7 分）
※ 会場は、最新設備によって常時換気を行っています。また感染症対策のため、会場参加は 80 名を上限としますのでご了承ください。
※ マスクの着用やこまめな手指消毒など、十分な感染症対策を実施のうえご来場ください。少しでも体調がすぐれない場合はご来場をお控えください。
※ 今回は現地参加を基本としますが、遠方等で現地参加が難しい方はリモート参加をご案内しますので、事務局（裏面下部記載）までお問い合わせください。
※ YouTube においてライブ配信も行います。（右下の QR コードから視聴できます）



■ プログラム

進行：渡邊・南

第 1 部：はじめに

1. 開会挨拶

- NPO ア！安全・快適街づくり理事長 / 協議会会長 成戸寿彦
- 新小岩北地区連合町会会長 荒川利夫

2. 話題提供

- 浸水対応型市街地×流域治水×地域社会 東京大学 加藤孝明
- 近年の水害×流域治水 荒川下流河川事務所 出口桂輔
- 区の未来像×内水氾濫 葛飾区 情野正彦

休憩 10 分

第 2 部：多様な活動報告と意見交換

- 地域から 各町会、それぞれ地域活動など
- 小・中学校から 学習支援など 校長先生など
- 大学から 研究のさまざま
- 行政から 葛飾区のまちづくり・非常時対策など
- 企業から コロナ禍中の企業対策など
- NPO から 共助支援アプリ「天サイ！まなぶくんⅡ」開発中など

※ 懇親会はいりません

【これまでの経緯】 ※詳細は『NPO ア！安全・快適街づくりニュース』参照

20 年あまりにわたって町会、NPO、専門家、大学、行政などが中心となって、大規模水害に備えるための様々な活動、研究をすすめ、2012（平成 24）年度「新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」を組織し、安全・快適まちづくり活動を広く地域に繋げ、交流、発展、創造の場として「輪中会議」を立ちあげました。

【これまでに参加した人・組織】

- 新小岩北地区連合町会の各町会・自治会のみなさん
- 地域住民のみなさん（葛飾区、江戸川区、足立区など）
- 地域の社会福祉法人（保育園、幼稚園、老人福祉施設）
- 地域の民生児童委員
- 地域の消防団 ○ 地域の市民消防隊
- 地域の小中学校 ○ 地域の小・中・高生 ○ 地域の PTA
- 地域の企業
- 地域の消防署（本田消防署、同上平井出張所）
- 行政（葛飾区、東京都、国土交通省、内閣府）
- 専門家（東京大学、芝浦工業大学、認定 NPO 日本都市計画家協会）
- 学生（広域ゼロメートル市街地や輪中会議など勉強したい学生たち）
- 葛飾区保健所と医師会
- 広域ゼロメートル市街地研究会
- NPO ア！安全・快適街づくり



【お問合せ】NPO ア！安全・快適街づくり（輪中会議事務局 担当：渡邊・南）

2022 輪中会議（第 15 回）開催の経緯

成戸 寿彦
NPO ア！安全・快適街づくり 理事長

2021 年の第 14 回輪中会議は、コロナ対策として Web を中心とした会議としたため、翌年の 2 月に NPO 内部で総括した結果、以下のような方向性が得られました。

- Web 会議としたため参加者の多様化が進み盛況であった半面では、町会など地域の声が遠くなってしまった。
- 一方では、専門家集団の声やそれに基づく議論を深めるには至っていない。
- 持続可能な輪中会議とするためには、地域性と専門性といった相反する特徴を生かすことができる、輪中会議の新しいあり方を構築すべきである。

この方向性を受けて同年 4 月に加藤先生とともに行った検討会では、輪中地域会議と輪中専門家会議に分けて行うことを決めました。そして 2022 年は、まず輪中地域会議から始め、日程は 10 月 15 日または 16 日とすること。会場は「にこわ新小岩」又は「新小岩北地区センター」の方向で調整することとしました。

その後は各月の事務局会議ごとに内容が固まり、10 月 15 日に「にこわ新小岩」で行うことまではすんなり決まりましたが、最大の関門はコロナ感染症への対応でした。

輪中地域会議には、上平井中学の地域防災ボランティア部の皆さんの参加も欠かせませんので、最も気を使わなければならない点です。

具体的な検討を始めた 6 月や 7 月は、コロナの第 6 波が終息に向かいつつある段階でしたが、第 7 波が始まってもおかしくない状況でした。

その結果コロナの感染状況に注視しつつ、「リアル案」「ハイブリット案」とともに万一の場合は「延期案」をも排除しない姿勢ながら、並行して内容の検討を進めました。

- 「リアル案」は、上限人数や会場のレイアウトを具体的に検討する。
- 「ハイブリット案」は、にこわ新小岩に集まる部隊と Web で参加する部隊の役割分担を吟味する。
- これらについては、9 月 3 日に加藤研究室に集まって最終決定をする。

関係先への根回しについては、7 月 28 日の予定が先方のご都合で 9 月 5 日となった荒川下流河川事務所の出口所長さん。町会関係者には荒川連合町会長と寅ケ口新町会長及び竹本新町会長に根回しをし、9 月 21 日の連合町会長会議に出向いて説明をしました。

輪中会議の主催は新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会で、連合町会もその一員であるわけです。

9 月 3 日に加藤研究室に集まり、加藤先生ともども調整しました。

輪中会議は予定どおりの日程で、コロナ対策を十分とった対面を中心とし一部 Web も活用するハイブリッド方式にて行う、としました。

当時のコロナの感染状況は、10 月 15 日は第 7 波が終息し第 8 波に向かう端境期にあたり、大変ラッキーな時期ではありました。しかし身近なところからも感染者が出るなど切迫感がありましたので、対策はしっかり致しました。

特に会場のレイアウトには気を配り、加藤先生の提案で中央の発言者ブロックだけにテーブルをおき、南さん操作の 360 度カメラで発言者の様子をスクリーンで表示します。発言者は中央に出向いて発言をします。そこでのコロナ対策を集中的にできるメリットがあります。

そして発言者のテーブルを取り囲むように（机はおかず）椅子だけの傍聴席を間隔を置いて配置します。傍聴席に机をおかないため、全員に簡易ボードと簡易ペンを配布することとしました。

このような考えのもと、テーブルや椅子のレイアウトを古川さんに CG で何通りも検討いただき、混雑感の少ない図のような形に落ち着きました。



このような対応策を順次検討し、10 月 4 日に Zoom 会議で最後の調整をして迎えた本番は、主たる会場は「にこわ新小岩」で、オンラインでの参加も可能とし、YouTube にてライブ配信するという方式になりました。

会場での参加者は 60 名、オンライン参加者は 4 名そして YouTube 傍聴者は 40 名ほどとなりました。

コロナ対策としては、主催者としてもアルコール液を各所におき消毒されたウエットティッシュを配るなど、注意喚起を十分致しました。

上平井中学地域防災ボランティア部の浅賀さんも中央に出たの発言がありましたが、全般的に活発な意見交換が得られ、コロナ対策も十分とられ、大いに成果のあった輪中会議でした。

各々の立場からの経験談が、これ以降、語られます。

第 15 回輪中会議を振り返って

宇賀 俊夫

NPO ア！安全・快適まちづくり

第 15 回の輪中会議は 2022 年 10 月 15 日に新たに建設された「にこわ新小岩」の多目的ホールで開催されました。これまで 2 年ほどコロナ禍の影響でリモート中心で行われてきた会を今回は対面中心で開催することにし、感染予防策として入り口での検温、除菌ウェットティッシュを配布するとともに、座席の間隔を広く取り、机は無しにして代わりに来場者にクリップボードにメモ用紙と筆記具をつけて配布することにしました。

更に今回は会場を加藤先生紹介の「金魚鉢」方式にて開催することにしました。この方式は中央に机 2 台といす 4 脚を据えそこに司会者とその補助者が座り、参加者はその周りに 2 重の輪になって座ること、発言者は指名を受けたら中央の机に移動して発言することとし、その状況は会場内に 2 か所設けられたスクリーンで見ることが出来るように設営したものです。今後もこの会場で開催する時には採用することが考えられます。

今年のテーマは「親水・浸水 × まちづくり・ひとづくり × 近所・近助～“親水”を地域社会で考える～」というもので、原点に回帰し、地域の経験・悩み・課題・情報の共有を軸に、“親水と浸水，ゼロメートル市街地における計画可能なまちづくり・ひとづくり”、“近所と近助”などついて幅広く意見の交換を行うこと目指して開催されました。

この結果、会場に参加した 61 名のうち、半数以上の方が地域の町会の方となりました。

まず成戸協議会会長・NPO 理事長、荒川連合町会長の挨拶があったのち、第 1 部では話題提供として東京大学加藤教授による NPO のこれまでの活動のレビューと今後の気候変動に対応した「浸水対応型市街地構想」の話が、次いで荒川下流河川事務所の出口所長による「近年の水害の激甚化」とそれに対処するための「流域治水対策」の話が、最後に葛飾区区役所情報危機管理部の情野部長による「浸水対応型市街地構想」の詳細と内水氾濫に対する対応についての話題提供がありました。

しばし休憩ののち第 2 部では例年参加されている上平井中学校の地域防災ボランティア部の現役部員、OB、指導の先生、出前授業の講師、副読本作成委員、市民消防隊など多くの方々から活動報告をいただきましたが、ここでは本年初めてご参加いただいた方々の報告について触れてみたいと思います。

まずは大東文化大学防災研究グループの鴨田さんからの報告です。同大学は板橋区の他に東松山市にキャンパスがあること、2019 年の台風 19 号によって

東松山市では甚大に被害をこうむり、死者まで発生したこと、被害はこの地域が荒川中流部にあり、台風などの豪雨の際に増水した荒川またはその支流の水を調整地で一時的に受け入れ、下流での増水による堤防を超える溢水や堤防決壊による市街地への氾濫を防ぐ役割を担っているのだが、一部の支流で堤防越えの氾濫が起こり、被害が生じたとの報告があり、それでも下流での氾濫を起こさずに済んだのは上・中流域での努力あつてのことなのを覚えておいていただきたいとの報告がありました。たまたま私たちの NPO が昨年 8 月に東松山市近隣の都幾川の決壊現場見学会を行い。その後東松山市の防災関係者の方からお話を伺った際に大東文化大の防災サークルの方も参加していたご縁で今回の鴨田さんの輪中会議への参加となった次第です。今年の NPO 活動のテーマの一つが「広域治水への交流」であり、上・中流の方との交流を深めることにあるので、今後もこの関係を深めていきたいと考えています。

更に、今回初めて参加された方の一人が倉敷市真備町の金藤さんです。ご承知の通り真備町は 2018 年 7 月の西日本豪雨で高梁川の増水によりそれに交わる小田川にバックウォーター現象がおこり、小田川が氾濫して真備町全域が浸水しました。この街では高い建物がなく、ほとんどが 2 階建てか平屋で水が引けるのに 1 ヶ月近くかかりました。金藤さんの実家もやっと水が引いた後は内部はめちゃくちゃ、カビだらけで住むこともできず、建て替えざるを得ない状況になりました。これまで岡山県は年間降水量が少なく「晴れの国」といわれていたものの、真備町では高梁川と小田川が合流する一帯が上流で大雨が降ると水害が起きやすい低地だったのです。この大水害にあつて金藤さんは水害に対する備えの必要性を痛切に感じ、防災活動推進のために新会社を作つて浸水対応のための啓発活動に従事することになり、その縁でこの輪中会議にも参加することになったとのことでした。

地元の連合町会からの初めての参加者は東新小岩 3 丁目アーバンライフ自治会長の坂上さんです。坂上さんのところは旧住宅公団が建設した数棟の高層住宅群からなる団地で、団地単独で自治会を形成しています。そのため、緊急時に近隣住民が垂直避難するのを受け入れる協定を区と結んでいました。ただ、協定には具体的な取り決めはなく、実際にそのような事態が発生し、多くの人々が避難してきても滞在できる場所は各戸の玄関前にあるの水平通路だけです。区から支給されるのは簡易トイレと毛布ぐらいでこれでは一時しのぎが精一杯で大水害には対応できず、避難者は区外に避難する以外に方法はありません。早く浸水対応型市街地が形成され、アーバンライフから空中回廊を利用して他の避難場所（例えば上平井中）に避難することが出来るようになればよいのですがそれまでどうしたらよいのでしょうか。

この他に葛飾区の社会福祉協議会から参加された亀川さんからは次のような話がありました。社協では昨年から災害支援三者交流会を設立して活動してい

るとのこと。これは区と地域のボランティアや NPO 団体、それと社協が核となりネットワークづくりを目指して情報の交換を行っている会で、本日は子供の居場所を支援する「(一社) にっしんこどもひろば」から 3 名の方が参加されていること、この団体の支援母体は (株) 日伸鉄鋼建設であり、建設分野で力のある技術力のある団体なので災害時にはその力が期待出来ること、また、交流会のメンバーに NPO ファンドジャパンという看護師さんの団体があり、災害時に力を発揮できるものと思われること、これからも社協も輪中会議に参加していきたいのでよろしくお願いしますとのことでした。

最後の加藤先生がまとめに入り、次のような話がありました。

第 1 に挙げられるのは出前授業を続けることによって縦のつながりが出来てきたのではないかとことです。小学校で出前授業を受けた子供たちが中学生になり地域防災ボランティア部で活動し、その OB、OG が高校生、大学生として出前授業の講師陣に参加し、社会人になって地域の防災活動の柱になってくれば、この活動は 40 年後も続いていくことが出来るのではないかとことです。

第 3 はボート訓練がぼつぼつ他の地域に広がりを見せていることですが、ボートのような楽しみを持った第 2 の活動が現れるとさらに現在の活動が広まっていけるのではないかとことです。なにか楽しみの要素がないと何事も続けていくことはできません。常々防災“も”街づくりと申し上げているのはこのことです。

第 3 は今回東松山や、真備町の方が参加いただいたのは素晴らしいことでした。狭い自分の地域だけにとどまらず他の地域に行って学ぶことが大切です。かつて南三陸に大型バスで行って現地の方々のお話を聞き、交流出来たことを思い出します。被災地から学び、社協といったような各種団体とつながることも必要です。これをきっかけにして地域で課題を見つけてその解決のために何ができるか考えること、そしてその活動結果を報告していただきたいと願っていますということで締めくくりとなりました。

これで今回の輪中会議は終わったわけですが、新しい団体や個人の方の参加を得て大変有意義な輪中会議となりました。

次回の輪中会議は地域の防災を担っていく方のレベルアップを目指してワークショップを組み込んだものとなる予定です。どのような成果が得られるかご期待ください。

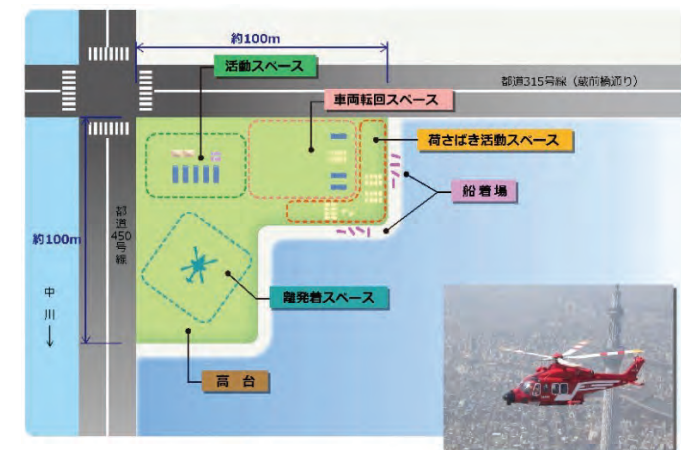


1960 年代の浸水対応型建築：現・葛飾区総合庁舎（JA+U ホーム ページより、本誌 24 号表紙ウラも参照）

行政から



浸水対応型拠点建築物への建て替えが完了した小松中学校



水害時の受援拠点のイメージ

川の手・人情都市「かつしか」の実現に向けて（５）

情野 正彦

葛飾区 地域振興部（危機管理・防災担当）

我が家では、毎年恒例となっている防災備蓄の点検を行いました。子供が小さい頃は、夏のキャンプを兼ね、この点検を行っていましたが、こども３人が巣立ち、今は家内と二人で寂しく、エネポの作動確認や食料などの賞味期限の確認などを進めています。今年は太陽工発電設備＋蓄電池を新たに導入し、これまでのエネポ＋ポータブル蓄電池から、さらにパワーアップし、自助の取り組みを進めているところです。



さてここからは、本題の本区の取り組みについてです。

今年（令和５年）は、６月から 35℃を超える猛暑日が続くとともに、全国各地で線状降水帯が発生するなど、地球温暖化に伴う気候変動の進展を目の当たりにする１年となりました。また、昨年６月から「線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ」が開始され、さらに本年５月 25 日から「線状降水帯の発生情報」の新たな運用が開始（最大 30 分程度前倒しして発表）されるなど、気象観測・予測技術が進展しています。

６月 2 日の台風 2 号に伴う前線の活発化による大雨では、東京地方に初めて「線状降水帯の発生の可能性」（資料 1）が示され、幸いにも線状降水帯は発生

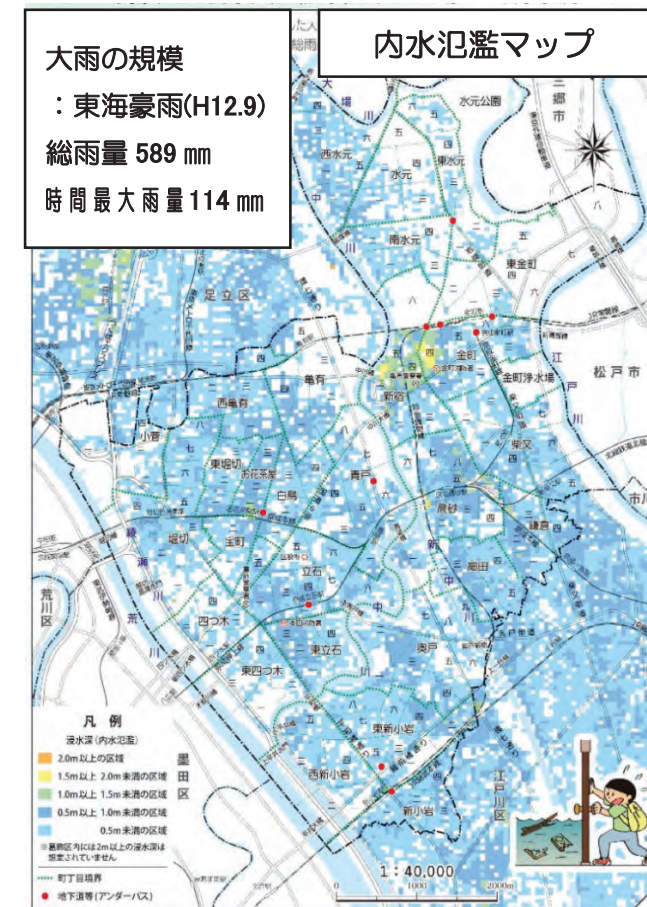
しませんでした。三郷排水機場のポンプの不具合が重なり、中川上流の吉川観測所で氾濫危険水位を超過し、本区にお

いても、中川が上流部で破堤した場合、浸水が想定される西部地域の地区センターなどを一時施設として開設するなど、対応を図ったところです。

一方、万が一、本区を含むエリアに、線状降水帯が発生した場合、下水道の能力を大きく超過し、内水氾濫が全区的に発生する事態も容易に想定されることから、線状降水帯の発生の可能性が示された場合の対応を新たに整理しました。

東京都の府県気象情報	
タイトル	発表時刻
大雨と高波及び雷に関する東京都気象情報 第1号	2023年06月01日11時41分
大雨と高波及び雷に関する東京都気象情報 第6号 令和5年6月2日11時21分 気象庁発表	
（見出し） 関東甲信地方では、2日夜から3日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。東京地方と伊豆諸島では、3日にかけて土砂災害、低い土地や地下施設への浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風にも注意してください。また、伊豆諸島では3日にかけて高波に警戒してください。	

資料 1

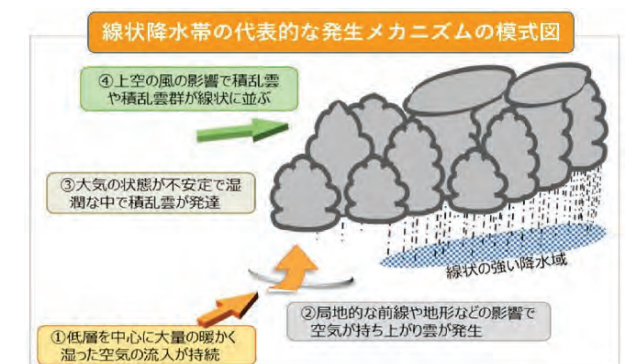


3. 「顕著な大雨に関する東京都気象情報」が発せられ、気象レーダーにおいて、本区に線状降水帯による影響が確認できるとき

・安全・安心メール等を用い、直ちに2階以上への垂直避難を促す。

こととしたものです。マンションの1階などにお住まいの方は、日ごろから、垂直避難先の確認などをお願いします。また、線状降水帯の発生メカニズムの概要（資料 2）はわかっていますが、発生に必要な水蒸気の量、大気の安定度など複数の要素が関係しており、現状では、正確な予想が難しくなっていますが、今後発生の可能性は高まっていることは間違いのない事実であると思います。

現状では、バリアフリーへの配慮から、高齢者等の多くが1階に居住することが一般的となっていますが、今後は、要配慮者こそ、2階以上に住むことを推奨するなど、住まい方を変える必要性もあるかもしれません。



資料 2（気象庁のホームページより）

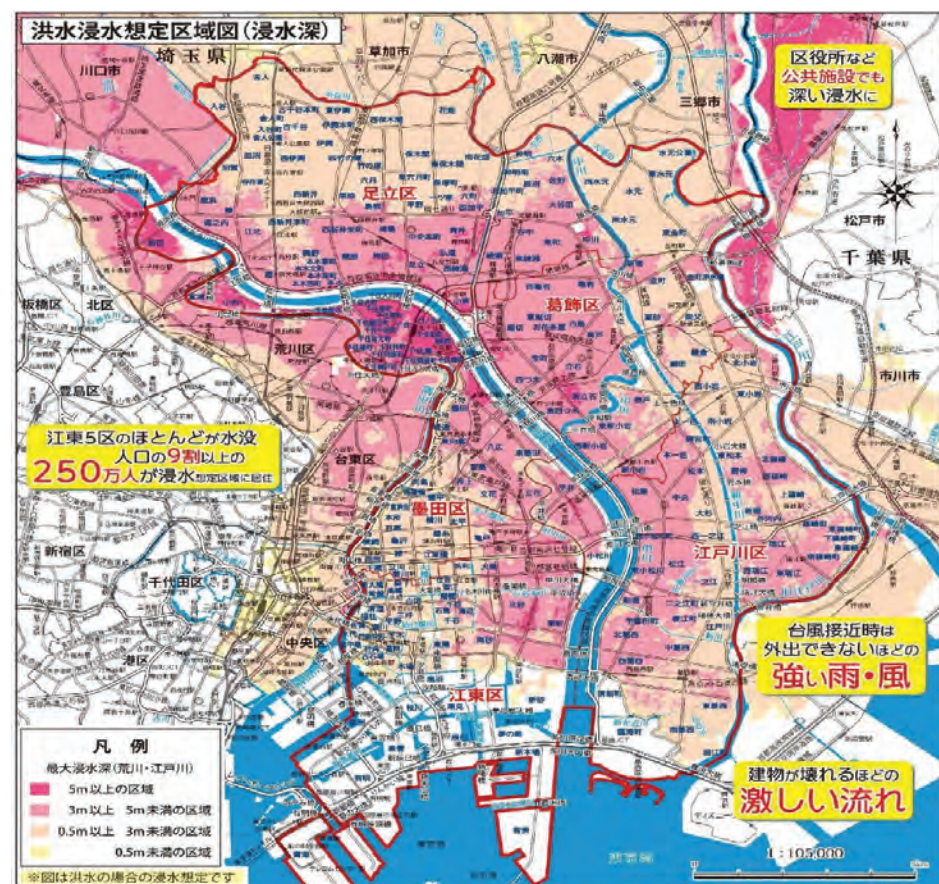
未曾有の大規模水害からの広域避難について

玉川 俊樹

葛飾区 地域振興部危機管理課災害対策係

「広域避難」という言葉をご存じでしょうか。防災活動に長年携わっていらっしゃる皆様にとっては、地震に伴う大火災等による二次災害の危険から避難する「広域避難場所」のことかな？と思われるかもしれませんが、しかし、ここではこれまでの想定を超える水害発生時に、他の被災しない又は被災が少ない市区町村へ広域的に事前避難することを指してご説明させていただきます。

近年、集中豪雨や局地的な大雨が増加し、大型で非常に強い勢力をもった台風が頻繁に接近するなど、日本各地で気候変動による大規模な風水害が頻発化・激甚化しています。荒川沿川でゼロメートル地帯が広がる江東 5 区（葛飾区、墨田区、江東区、足立区、江戸川区）で複数河川の氾濫や高潮が発生した場合、5m 以上の浸水深（図 1）や 2 週間以上の浸水継続時間が想定されており、約 250 万人の住民が被害を受けるとされています。そこで、平成 28 年より「江東 5 区広域避難推進協議会」を設置し、大規模水害から計画的に住民が「広域避難」を行うため、都や国と連携して検討を進めております。



（図1）江東 5 区広域避難ハザードマップ 洪水浸水想定区域図（浸水深）

江東 5 区で「広域避難」の検討を進めるにあたって、広域避難対象となる住民の範囲や広域避難先の確保、広域避難先への移動手段や広域避難の発令基準など、様々な課題があります。この中でも、特に洪水によって家屋が被害を受ける地域（家屋倒壊等氾濫想定区域等）の方や人工呼吸器等の継続的な医療ケアが必要な方等の広域避難が必須となる方々に対し、命を守るための避難行動を理解し、自ら考えて行動していただくことが重要となります。

このことから、本区では平常時の周知として毎年開催している水害ハザードマップ説明会（図 2）や出前講座等の際に、通常の水害（内水氾濫や中小河川の洪水）とは異なる大規模水害が発生した場合には、これまでとは違った避難行動を取る必要があることや、縁故避難及びホテル避難等の自主的な広域避難先の確保の必要性を周知しています。



（図2）令和 5 年ハザードマップ説明会

また、災害時の備えとして住民の皆様の広域避難を促すため、都及び国と連携した情報発信や広域避難先施設の確保及び運営方法の取り決め等を進めています。公的な広域避難先の一例としては、国立オリンピック記念青少年総合センター（図 3）を確保しており、コロナ渦でも 3,000 人程度収容可能な施設となります。この施設以外にも、現在までに 16 法人 34 施設と災害時の広域避難先施設としての利用について協定を締結しており、今後も施設の確保を進めていく予定です。

このほかにも東京都と連携した取り組みでは、大規模水害時に人命を最優先とする警戒レベル 5 の「緊急安全確保」を行う際、逃げ遅れた住民の方が徒歩で緊急的に避難するスペースとして、高速道路の高架部の一部を一時利用することと避難後の輸送につ



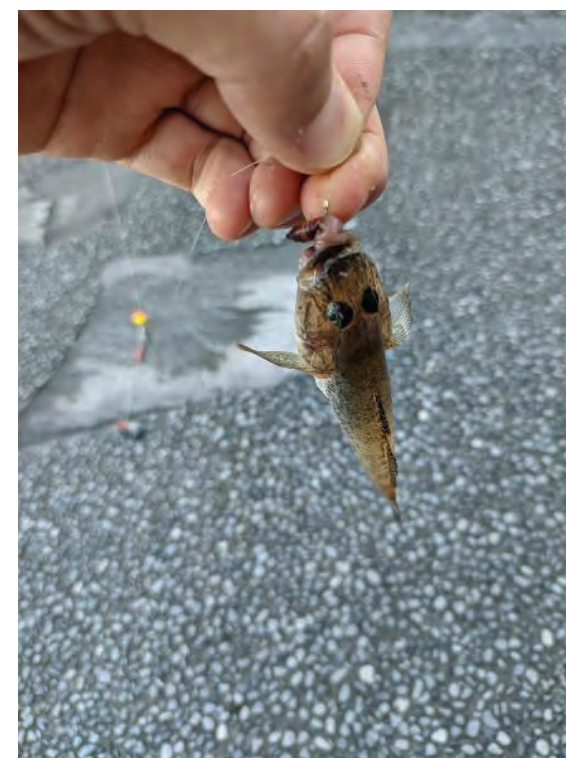
（図3）国立オリンピック記念青少年総合センター

いて、高速道路事業者及びバス事業者と協定を締結しました。ただし、これらの協定は洪水切迫時に逃げ遅れてしまった住民が対象となりますので、警戒レベル 4 の「避難指示」までには事前の避難を行うようにしてください。

皆様も、ニュースなどで「広域避難」というキーワードが発せられた場合は、これまでの避難情報とは全く別物であることを認識し、広域避難を含めた命を守るための行動をとっていただくようお願いいたします。



事務局から 2022



加藤先生が日本都市計画学会計画設計賞を受賞 — 当 NPO も協力者として受賞者の一員に —

宇賀 俊夫
NPO ア！安全・快適街づくり

当 NP の理事の一員で東京大学生産技術研究所教授の加藤先生が日本都市計画学会の2022年度計画設計賞を受賞され、協同研究者の加藤研究室 OB の塩崎由人氏、協力者として当 NPO 初代理事長の故石川金治氏、当 NPO が葛飾区と共同で事務局を務め、新小岩北地区連合町会も一員として参加し、成戸理事長が会長を務める新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会及び当 NPO が受賞者に加わり、表彰式が昨年5月26日に日本都市計画学会年次総会開催時に行われました。

受賞作品名は「浸水対応型市街地構想、及び、それに至る取り組み—気候変動への対応への市街地の適応（高台まちづくり）の展開への布石—」と題するものです。本プロジェクトは、東京区部東部の海拔ゼロメートル市街地における新たな防災の計画設計として、地元住民や NPO との協働により、ハード構想とソフトの組み合わせによる「浸水対応型市街地構想」であり、その新規性に加えて提案が葛飾区において公式な構想として公表され、東京都及び国土交通省の政策にも取り入れられるなど社会的波及性を有することが評価されたものです。

日本都市計画学会の計画設計賞は石川賞に次ぐ大変価値のある賞で、「浸水対応型市街地構想」がその栄誉に輝いたことは、都市計画の分野におけるこの分野への期待の高さを物語るものと言えます。

研究成果が直ちに葛飾区の政策に取り入れられたことは誠に喜ばしいことで、今後30年を目標に葛飾の海拔ゼロメートル高密度市街地が一步步着実に浸水対応型市街地に変貌していくのを期待して待ちたいと思います。

また当 NPO としても、加藤研究室、葛飾区及び関係する町会とともに、今後とも尽力してまいりたいと思います。



令和4年度葛飾区地域活動団体助成事業
「親子で語り継ぐ大水害時の避難について」

増澤 一郎

NPO ア！安全・快適街づくり

当NPOは、12年前の平成23年3月11日に発生した東日本大震災を教訓に、命だけは助かる一刻も早い避難を、地域の小学校・保育園・中学校に呼び掛ける活動を行っている。

この活動は、毎年度葛飾区が募集する「地域活動団体助成事業」に応募し、幸い連続して採用されていたが、昨年度末新たに同区が「防災活動団体助成事業」を創設し、事業の性格が本活動により強く関係していると理解し、同事業に応募採用され現在、当初の計画に沿って実施中である。

長年、申請から実績報告に至る間、親切に温かく指導下さった地域振興課担当の方々に心より御礼申し上げます。

尚、令和6年度も「防災活動団体助成事業」の公募に応募し、採用されるよう地道な出前授業等を行う予定である。

以下、令和4年度の出前授業等の一覧表を紹介する。

1. 上平井中学校地域防災ボランティア部活動支援

No.	日時	場所	指導講師	対象 (生徒数)	備考
①	7月11日(月) 15:30~17:00	上平井中学校理科室	南講師	部員 8名	太田部活動顧問先生
②	10月 3日(月) 15:30~17:00	街歩き観察・探訪	南講師	〃	〃
③	10月 7日(金) 15:30~17:00	上平井中学校理科室	南講師	〃	〃
④	10月15日(土) 10:00~12:00	上平井中学校体育館 (リハーサル)	南講師	〃	〃
⑤	10月22日(土) 8:30~11:30	〃 (校内学芸発表会)	南講師	〃	〃
⑥	12月26日(月) 15:00~17:00	〃 理科室 (反省と今後の活動)	南講師	〃 6名	〃
⑦	2月 6日(月) 15:00~17:00	上平井中学校理科室 (新年度に向けて)	南講師	〃 6名	〃

2. 講演会・出前授業

No.	日時	場所	指導講師	対象 (生徒数)	備考
①	5月14日(土) 9:35~10:20	二上小学校 体育館	寺島講師	第6学年 107名	杉本副校長先生窓口
②	7月 9日(土) 9:20~10:05	上小松小学校 体育館	中川講師・ 南講師	第5学年 82名	林副校長先生窓口
③	9月10日(土) 8:45~ 9:30	二上小学校 体育館	中川講師・ 岸田講師	第5学年 88名	杉本副校長先生窓口
④	9月10日(土) 10:15~11:00	小松南小学校 体育館	竹本講師・ 岸田講師	第4学年 74名	白木先生窓口
⑤	10月 8日(土) 10:30~11:30	うらら保育園 講堂	中村講師・ 芝工大生	保護者・教職員 15名	久保下先生窓口
⑥	10月15日(土) 10:15~11:00	上平井小学校 図書閲覧室と別室	菅野講師・ 南講師・ 小豆嶋講師	第4学年 68名	江方副校長先生窓口
⑦	10月15日(土) 9:15~10:00	上平井小学校 図書閲覧室	菅野講師・ 南講師・ 小豆嶋講師	第6学年 49名	江方副校長先生窓口
⑧	12月10日(土) 9:20~10:05	松上小学校 体育館	寺島講師	第6学年 91名	浅山副校長先生窓口
⑨	1月14日(土) 9:20~10:05	松上小学校 体育館	竹本講師・ 南講師・ 小豆嶋講師・ 増渕講師	第5学年 84名	浅山副校長先生窓口
⑩	2月18日(土) 8:30~ 9:15	松上小学校 体育館	菅野講師・ 南講師・ 小豆嶋講師・ 増渕講師	第3学年 88名	浅山副校長先生窓口



息の長い「出前授業」に向けて

理事長 成戸寿彦

事務局 増澤一郎

NPO ア！安全・快適街づくり

1. 出前授業と葛飾区の助成

弊 NPO では発足以来、大水害時における実践的避難訓練活動を地元町会や葛飾区などの協力を得て、石川前理事長の先導で行ってきた。

出前授業としての形を整えたのは、先の東日本大震災を機に、平成 25 年度葛飾区地域活動団体事業費の助成金を得て、地域の小中学校生を対象とした「親子で話し合い語り継ぐ大水害時の避難について」をテーマとする講演会や出前授業を行うようになってからである。

爾来、途切れることなく葛飾区の地域活動団体助成事業としての助成金を得ながら出前授業を発展させてきたが、この事業の最大の難点は、助成金に見合う費用を NPO で負担しなければならないことであり、零細な NPO として活動の柱の一つとし続けるにはある種の限界を感じていた。

一方、水害時の避難をテーマとする本出前授業がこうして今までつづいていること自体地域の学校が、必要性和重要性を十分認識し、協力を惜しまないからである。また、「親子で語り継ぐ水害時の避難」は、各家庭で折に触れ話し合っ

て欲しい極めて公共性の高いものでもある。こうして 10 年余り出前授業を続けている間に、小・中学生であった生徒が高校生や大学生となり出前授業の講師を務めるという成果を持ち始めてきた。こうした実績のうえから、極力 NPO の負担を伴わない出前授業が出来ないものか、葛飾区と相談していたところ、青木区長の英断をもって、このたび（令和 5 年 2 月）「葛飾区防災活動団体事業費助成金交付要綱」として新しい制度が発足したところである。

この要綱は弊 NPO だけでなく、志を同じくする団体や NPO が区内の他の地域で既に出前授業等を展開している場合に、申請できる汎用性の高いものでもある点を評価したい。

さらにこの新しい制度は、講師の謝礼金や交通費など実際に要する費用が事前に仮払いされる点に特徴があり、零細な NPO には大変利用しやすい制度となっている。

もとより NPO の経常的な活動自体に資する制度ではないのは当然であり、むしろこの制度を運営するために、学校側との事前調整など NPO 自体が無償

の汗を流さねばならないこととなっている。将来的には、事前調整など出前授業に関する費用がこの制度の範疇に含まれることを望みたい。

とはいえ、出前授業に直接使用するとともに「親子で語り継ぐ」というタイトルを実現させるための「副読本」と、児童生徒が今まで使っていた『東京マイ・タイムライン』に代わる当 NPO 講師陣作成による「避難カード」の印刷費が含まれた点は、今後の出前授業の継続にとって大変励みになるものである。

この制度を一年運用してみて、新しい要綱の利点として以下の点を挙げることができる。

- ① 負担を強要されることなく活動に必要な費用を得られるようになったこと
- ② 申請から助成金を得るまでの期間が短くなり、活動しやすくなったこと
- ③ 助成金の範囲内での目的に応じた変更が可能となり、弾力的且つ即効的運用ができるようになったこと
- ④ 講師及び事務方の交通費の実費が認められるようになったこと
- ⑤ 事前に仮払いされること

活動する側の NPO としては、昨年度は改善すべき点を改善しながら活動しているが、今年度は更に改善し、試行錯誤を繰り返しつつ息の長い出前授業となるようにしたいと考えている。

具体的に今年度に向けて改善した点は、NPO が独自に行うべき点は委託せず自前で行うことや委託は「出前授業のあり方に関する考察と提言」といった客観的なものを中心になること及び児童の感想文はそれを読んで生かすべき立場にある講師が読み、そしてコメントをつけることなどである。

こうした講師のコメントを客観的な立場から考察し得るようにしていきたい。

これらが十分機能し、次のより良い出前授業に繋げ、葛飾区や対象校からも評価されるような事業としていきたい。

2. 葛飾区防災活動団体事業費助成金制度の運用実績

平成 4 年度まで 10 年間に亘り得ていた地域活動団体事業費助成金から弊 NPO 活動に、より相応しい助成金要綱が施行されたことに伴い、申請し採択された「出前授業等」はタイトルも「親子で語り継ぐ浸水・親水」～水害時の対応～となった。

授業等の内容は、これまで同様、保育園 1 園・小学校 5 校・中学校 1 校で、それぞれ講演、授業、部活動支援を活発に行った。

殊に、授業時間も 1 コマ 45 分間から 2 コマ 90 分間授業へと内容を充実する対象校が増えてきたのも嬉しいことである。

講師陣も地域の町会長さんを始め、町会関係者や大学教授・郷土史研究家・

会社員・大学院生・大学生・高校生と言った今まで同様、多才かつ豪華なメンバーで臨むことができた。

講演・授業等の対象は、新小岩と新小岩北地区の小学校第3学年生～6学年生と、上平井中学校クラブ活動部員それに保育園保護者・保育士の方々である。

授業等の活動は台風期に合わせ、6月から10月の「葛飾教育の日（月1回土曜日）」を中心に、「大洪水時の早目の避難について」を重点に行った。

昨年度特筆する点は、以下のようなことである。

- ① 防災人材育成と防災意識啓発が新制度の目的であり、弊NPO活動が正に合致することから申請し、採択された。
- ② 申請から助成金を受け取るまでの期間が短縮された。
地域活動団体事業費助成金の場合、応募団体が多岐・多様な分野に亘る為、審査委員会が設けられそこでの審査期間を必要とする。
- ③ 新小岩の小学校と、中学校の部活動で大洪水時の避難を学び、高校・大学で防災に関する知見を広めている若手講師が育って来、生徒にとってより身近な授業となった。
- ④ 出前授業の要が安全な場所へのいち早い避難であり、そのための訓練教材が今迄は、東京都から配布された『東京マイ・タイムライン』だったが、昨年度講師陣によるオリジナルの『避難カード』を完成させ、試用した。

このカードは生徒が避難先を決めれば、ゲーム感覚で手持ちの何枚ものカードを見比べて、自分に合うカードを選び出し最後に、無事避難先へ到着する訓練である。

3. これからの出前授業に向けて

故石川前理事長の口癖だった、「児童生徒が大洪水の避難で1人も取り残されず、全員が避難する『てんでんこ』を新小岩の地で育てる。」をしっかり受け継ぎ、発展させるには、弊NPOだけでなく、地域の若い方々の力が是非とも必要であると考えている。

また出前授業を受けた生徒が数年して先生役となりまた数年して地域に戻ってくる、という社会的な循環を形成するという地域での高い公共性から考慮して、いずれこの出前授業は地域が主体性を持って葛飾区からの助成金を得て運用して行くべきものでもあると考えている。

近年頻発する都市型豪雨水害、いつ起きるかも知れない東海地震など自然災害への備えと避難を親から子へ語り継ぎ地域の中で考えていくという土壌を作ることが、低地で脆弱な地盤で活動する我々の責務と心得、これからも出前授業を地道にかつより息長く育てていきたいと考えている。

令和4年度第2回見学会開催報告

山上 忠

NPO ア！安全・快適街づくり

令和4年8月の第1回東松山市被災地見学会に続き、令和5年1月荒川中流域を訪ねる第2回見学会を行った。主な目的は、葛飾区上平井中学校の課外活動でNPOが生徒に作成指導中の「出前授業副読本づくり」のための資料収集と災害学習であり、加えて同地区7丁目町会員の方々にも参加を求めて、親子で荒川上流部と下流部の関係性と治水の現状について学習し理解を深めることである。

1月28日早朝、7丁目町会会館に中学生を中心として町会員皆さんが集合し、葛飾区の防災担当者や大学生NPOスタッフなども加わり総勢33名がマイクロバスに乗車し出発した。町会のご厚意で山寺正修さんがドライバーを、竹本町会長がナビを勤めてくれて快晴に輝く富士山とスカイツリー左手に見て首都高速を快走する。間もなく東京大学大学院の南貴久さんより見学ルート・施設の果たす役割・施設の意義等々についてレクチュアが行われた。

10時最初の目的地防災地下神殿に到着、入口から地下60m100段の階段を降りて神殿の床に到着。施設の巨大な威容に歓声が湧き壁や天井に反響が沸く。ガイド嬢から地下神殿の役目は大量の降雨で堤防から溢れ洪水が発生することを防ぐため、河川の地下に巨大な穴を掘ってそこに貯めておき徐々に下流に放水する施設であると説明を受ける。地上に出て龍Q館へ移動。ここで地下神殿を運用する「調圧水槽」「作業用通路やポンプ室」「ガスタービン」「インペラ部」などが見学できた。昼食は春日部市の道の駅庄和で1時間の休憩。午後は荒川彩湖公園（通称カマキリ公園、14:30）、秋ヶ瀬取水堰（15:00）、第一調整池荒川彩湖公園彩湖自然学習センター（15:44）などを訪問した。いずれも広大な遊水池にあって首都圏の人々を守る重要施設であるとの認識を新たにした。狭い座席に満員移動であったが最後まで苦情も出ず故障者もなく終了した。尚本企画については一般社団法人関東地域づくり協会の平成4年度公益助成金を使用して行われた。



令和 5 年度の活動結果について

宇賀 俊夫

NPO ア！安全・快適街づくり 事務局長

令和 5 年度もはじめはコロナの影響で 3 密を避けるべく事務局会議は ZOOM による会議が継続され、総会も会員に議案を郵送し、回答はメールあるいは FAX で連絡する形で行われました。ただ、夏を過ぎるとコロナもやや下火になってきたこともあって、輪中会議など対面での行事も行われるようになりました。以下令和 5 年度の活動結果をご報告いたします。

1. 輪中会議の開催について

第 16 回の輪中会議は新小岩北地区の大ホールで 10 月 28 日に対面方式で開催されました。今回の輪中会議は「これまでの防災活動の到達点を確認し、新たな取り組みを行う」ことをテーマに開催し、総計 65 人の方が参加されました。お集まりいただいた方は実際に各町会で防災活動に携わっている方が多く、ワークショップを行うこととし、6 つのグループに分かれ自助、共助・公助の各分野で、現状はどこまで達成され、その先、短・中・長期的に解決されるべき課題は何で、それを達成するためにはどう取り組んでいけばよいのかを討議することで進められました。討議は熱心に行われ、その後各グループのファシリテーターから討議の結果報告があったのち、加藤先生からまとめとコメントがなされ、ここで摘出された課題を中心に、できるだけ早い機会につぎの輪中会議を開催することになりました。

因みに各グループが討議した事項と加藤先生のまとめを東大加藤研のキム・ジュンさんがチャートの形に整理いただいたので、それを別に掲載いたしますのでご参照ください。

2. 地域小学校への出前授業と中学校部活支援等について

従来葛飾区の地域活動団体事業費助成制度を利用して行われてきた地域小学校での出前授業、中学校での部活支援活度やうらら保育園での職員・保護者を対象にした防災に関する講演は、本年より新たに設けられた葛飾区防災活動団体助成事業に申請し、承認されて実施することになりました。実施内容は従来と同じく、地域の 5 つの小学校での『「親子で語り継ぐ浸水と親水」～水害時の対応～』をテーマとした出前授業、うらら保育園の職員や園児の父母を対象とした中村先生の水害に対する備えについての講演、上平井中学地域防災ボランティア部の活動の支援という形で実施されました。特筆すべきことはかつて小学校で出前授業を受けた生徒が上平井中学校での地域防災ボランティア部の活動を経て、高校生、大学生として出前授業の講師となって、活動を支えると

いった好循環が生まれてきたことです。今後もこのような好循環が継続し、定着していくことが期待されます。

3. 『「広域治水」への交流』事業について

令和 5 年度にも関東地域づくり協会のから助成を得て『「広域治水への交流」事業』を実施することになりました。この事業は荒川上・中・下流という広域に及ぶ治水に関係する団体がお互いに交流を深めることを目的としたもので、相互の連携を深めることによって災害の発生による被害の最小化を図ることが可能になると期待しています。

今年度は新小岩地区の町会関係者に加えて東松山地区の大東文化大学防災グループの学生、板橋区や北区の防災関係者の参加を得て、荒川中流の埼玉県長瀬地域での乗船体験による川の流れの観察や、さいたま県立川の博物館で荒川の源流となる甲武信岳から河口の東京湾までの 1,000 分の 1 の屋外立体模型を見ることで荒川の流れとその治水対策について理解を深めたり、新小岩地区上平井中の学生を対象とした荒川ロックゲートの見学などを実施し、広域治水の必要性について理解を深めることが出来たかと存じます。今後も種々の機会をとらえて、荒川上・中・下流で活動している防災団体との交流を図っていく所存です。

4. 共助支援アプリ「天サイ！まなぶくん II」の利用拡大について

令和 3 年度に開発された共助支援アプリ「天サイ！まなぶくん II」についてはコロナや猛暑のためモデル地域の東新小岩 7 丁目町会の防災訓練の機会にアプリ登録者を増やし、利用者のアプリ使用習熟度を高めることが出来ませんでした。他方、かつしか祭りでは「天サイ！まなぶくん」Ⅰ及びⅡのデモンストレーションを実施し、来場者に訴えることが出来ました。今後も防災訓練の機会を利用して更なる登録者の拡充を図るとともに、新小岩北地区他町会への普及や区内の他の地域への普及にも順次努めたいと考えております。

5. 出前授業副読本の作成について

一昨年に関東地域づくり協会からの助成を受けて作成した出前授業の副読本については其の後にも内容の充実を図るべく検討が進められてきました。葛飾区防災団体活動助成事業で令和 6 年度には副読本の児童への配布に要する費用の助成が得られる目途がついたため、6 年度秋からの配布に備えて 6 年 7 月末までには改訂増補版を完成、印刷にまわすべく準備を進めています。

6. 「街づくりニュース 29・30 合併号作成について

例年発行している街づくりニュース 29 号は編集作業が大幅に遅れ、年度内に発行することが出来なかったことは誠に申し訳ございませんでした。そこで令

和 5 年度に行った活動について取りまとめ、令和 6 年秋には 29、30 合併号として皆様のお手元に届けたいと一同頑張っておりますのでご寛恕のほどお願い申し上げます。

7. その他の活動について

今令和 5 年度もこの地域で計画されている新小岩公園高台化事業、蔵前橋通りと堤防通りの平面交差とそれに付随する緩傾斜堤防の建設計画、西新小岩 3 丁目地区での高規格堤防計画について情報の収集に詰めましたが、コロナ禍の影響もあってかいずれも目に見える形での進展はなく、具体化されるには至らないまま推移いたしました。NPO としては引き続きこの三事業の進展に注目していく所存です。

今年度も、輪中会議の開催、葛飾区の「防災活動団体事業助成制度」からの助成を受けて実施する地域小学校等での出前授業の実施と及び出前授業の副読本の作成と児童への配布、上平井中学地域防災ボランティア部学の活動支援など当 NPO の活動は続きます。引き続き皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

以上



第 16 回輪中会議



第 16 回 輪中会議 リーフレット

第 16 回 輪中会議 — 2023 地域の未来を語る会 —

地域の経験や工夫、悩みを共有する場として 2012 年に始まった輪中会議は、昨年で立ち上げから 10 年を迎え、多様かつ大勢の皆様に参加していただきながら発展を続けてきました。地域の活動が活発化していく中で、この輪中会議の次の展開として、新たな担い手の発掘や連携のきっかけづくりを目的とした従来の「輪中地域会議」に加え、すでに地域で広く活躍されている方や高い関心を持たれている方の間で地域課題について議論を深め、活動の高度化・活性化を図る場が新たに求められるようになってきています。

したがって今回は「地域の未来を語る会」と題し、最新の知見や事例を共有したうえで、地域の防災を含む諸課題の全体像を改めて整理し、よりよい地域をつくるために必要な“次のアクション”について議論を深めたいと思います。

■ テーマ：これまでの防災活動の到達点を確認し、新たな取り組みの準備を行う

■ 開催日時：2023 年（令和 5 年）10 月 28 日（土） 14:00～17:00

■ 主催：葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会

※ 構成メンバー：新小岩北地区連合町会、NP0ア！安全・快適街づくり、葛飾区、広域ゼロメートル市街地研究会、認定NP0日本都市計画家協会

■ 場所：新小岩北地区センター 大ホール（JR 新小岩駅北口 徒歩 10 分）

※ 当日現地で参加できない方向けに、YouTube においてライブ配信も行います。（事後の録画視聴も可能です。また、ワークショップ中は配信を中断します。）
配信 URL：<https://youtu.be/dT2sPOmRfrA>（左下の QR コードからも視聴可）



↑ YouTube 録画配信



↑ 輪中会議の資料は
こちらからダウンロード
（随時更新します）

■ プログラム

1. 趣旨説明

NP0 ア！安全・快適街づくり 理事長 / 協議会 会長 成戸寿彦

2. 連合町会長挨拶

新小岩北地区連合町会 会長 荒川利夫

3. 基調講演

東京大学生産技術研究所 教授 加藤孝明

「今、思うこと～防災まちづくり最前線～」

3 つのツボ／防災【も】まちづくり／プリコラージュとエンジニアリング／
浸水対応市街地構想／地区防災計画／避難行動要支援者対策：個別避難計画

4. 話題提供 「行政における 今、ホットな課題」

葛飾区 危機管理・防災担当部長 情野正彦

5. ワークショップ

コーディネーター：加藤孝明 / ファシリテーター：岸田・荳野・稲葉・大河原

- いくつかの小グループに分かれ、地域が抱えているさまざまな課題を持ち寄り、「公助・共助・自助×短期・中期・長期」の表の形に整理する

ワークショップの心得

- 話は短めに
- 他者の意見を否定しない
- 話をつなげる
- みんなで学ぶ

6. 全体討論

- 各テーブルでの議論の共有
- 取組みの優先順位と次のアクションをみんなで議論する

7. まとめ

17:00 終了予定、17:30 完全撤収（ご協力お願いします）

8. 懇親会（会場の都合で中止となりました）

【これまでの経緯】 ※詳細は『NP0 ア！安全・快適街づくりニュース』参照

20 年あまりにわたって町会、NP0、専門家、大学、行政などが中心となって、大規模水害に備えるための様々な活動、研究をすすめ、2012（平成 24）年度「新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」を組織し、安全・快適まちづくり活動を広く地域に繋げ、交流、発展、創造の場として「輪中会議」を立ちあげました。

【これまでに参加した人・組織】

- 新小岩北地区連合町会の各町会・自治会のみなさん
- 地域住民のみなさん（葛飾区、江戸川区、足立区など）
- 地域の社会福祉法人（保育園、幼稚園、老人福祉施設）
- 地域の民生児童委員
- 地域の消防団
- 地域の小中学校
- 地域の PTA
- 地域の消防署（本田消防署、同上平井出張所）
- 行政（葛飾区、東京都、国土交通省、内閣府）
- 専門家（東京大学、芝浦工業大学、認定 NP0 日本都市計画家協会）
- 学生（広域ゼロメートル市街地や輪中会議など勉強したい学生たち）
- 葛飾区保健所と医師会
- 広域ゼロメートル市街地研究会
- NP0 ア！安全・快適街づくり
- 地域の市民消防隊
- 地域の小・中・高生
- 地域の企業



経験を共有し、地域の未来を語ろう。

【お問合せ】NP0 ア！安全・快適街づくり（輪中会議事務局 担当：渡邊・南）

E-mail: tegami@banktown.org

第 16 回輪中会議 —2023 地域の未来を語る会—

成戸 寿彦

NPO ア！安全・快適街づくり 理事長

輪中会議も今年で12年目となった。コロナでの中止を含め、16回目である。

輪中とは、水害から集落を守るため高くした堤防に囲まれた地域で、木曽三川（木曾川・長良川・揖斐川）の輪中有名である。

我々が対象とする葛飾区新小岩北地域もゼロメートル地帯としていわば水害に対する運命共同体の地域であることから、水害への備えを共有するための場として「輪中会議」と命名した会議を行ってきた。下記がそのシンボルマークである。



経験を共有し、地域の未来を語らう。

このシンボルマークの標語に「経験を共有し、地域の未来を語らう」とあるように、当初の10年ほどはシンボルマークに示されている様々な立場の方々の水害に対する「経験を共有する」場として開催してきた。

そうした経緯を経て、輪中会議もそろそろ変わるべき時ではないかということになり、議論の過程では専門的な分野と地域的な分野に分けてはどうか、という意見も出てきた。しかし輪中会議の本来的な趣旨に立ちかえり、このシンボルマークの標語の後半に盛り込まれている「地域の未来を語る」会として、今回開催することとした。

いわば地域の者しか語れない地域の課題を少し深掘する場として、新しい輪中会議を運営していこうということである。そのため今回のテーマとして、「防災活動のこれまでの到達点を確認し、新たな取り組みの準備を行う」とした。

そうして「防災活動のこれまでの到達点を確認」する場として、「ワークショップ」を設営することとした。参加者全員が5～6のテーブルに分かれて地域のテーマについて自由に話し合いを行うが、そのための素材を加藤先生の「基調講演」と情野部長の「話題提供」として提供していただくことになる。

このワークショップを運営するのに大切なのが、ファシリテーターの存在である。

あらかじめ各テーブルに配置し、各テーブルでの議論を中立的な立場で促進していただくことになる。

今回の輪中会議をホップとして地域の課題を抽出し、次の輪中会議をステップとして課題を展開していくとともに、さらにその先のジャンプとして課題解決に向けていかれるように発展させていきたいと考えている。



“防災”と“地域づくり”、次世代の担い手を育成していくためには？

岸田 暁郎
(株)日本能率協会総合研究所

私達のグループは、自治町会長さん、民生委員さん、市民消火隊のみなさんなどで構成され、大変活発な議論がなされました。

1. はじめに

安全・快適街づくりを進めるうえで、ハード・ソフト対策の両輪が必要であることを、改めて参加者全員で確認しました。ソフト対策では、共助の取組みとして、以下の点についてアイデアが出されました。

2. 防災の取組の工夫

地域のお祭りといった普段の活動に防災の要素を取り入れる、防災訓練の方法も自治町会単位で工夫してみる、また、地域の保育園、社会福祉施設、まちづくり団体など様々な主体と連携していくと、地域の防災意識も向上していくのではないかという意見が出されました。

3. 防災の取組の普及・啓発

例えば最近、開催できていない水害に関するシンポジウムを地域で開催してはどうかという意見がありました。地域の良い取組を発信・共有する場を設けるとともに、良い取組はどんどん“真似する”ことも重要ではないでしょうか。

4. 地区防災計画づくり

地域で実施してきた防災の取組について振り返り、今後、どのような取組が必要かを考え、地区防災計画としてまとめてみるという意見もありました。その中で、関係者が連携した要配慮者の見守り体制、避難行動要支援者の避難支援体制の構築について位置付けても良いかもしれません。

5. 担い手育成

NPO で実施してきた小学校等での水害に関する出前授業をとおして、防災の担い手が育成されてきているという意見がありました。上平井中学校 地域ボランティア部の卒業生の方々が、この取組に参加してくれ好循環が生まれています。“防災”と“地域づくり”をセットで考え、担い手を育成、また、この良い地域をみんなで次世代に継承していけるようにしたいと思います。

6. 最後にコーディネーター役の発掘

これまで加藤孝明先生、加藤研究室や NPO の皆さん、町会自治会や市民消火隊の皆さん等に支えられてきました。防災の取組を様々な主体と連携して行うには、コーディネーター役をもっと増やしていかなければという意見です。

以上、議論の一部ですが、紹介いたしました。大田区民ではありますが、引き続き、地域の活動に参画させていただければと思います。

災害時の共助につなげる地域の関係づくりと 防災意識の啓発

稲葉 美哉子
東新小岩 7 丁目市民消火隊(女性隊隊長)

私達のグループは、自治町会長さん、民生委員さん、会社の経営者、保育園園長先生、市民消火隊などで構成され、活発な意見交換ができました。主に議論した内容は以下となります。

1. BCP

令和 6 年度から義務化された BCP については、会社や介護施設、障害施設での中長期的な事業継続を考える上でも策定の重要性が話題となりました。

2. 備蓄

個人、会社、町会での備蓄の充実、見直しについては皆さん意識が高く、特に通信機器の充電等ポータブル電源の見直しや新規購入など拡充が必要では、という声が挙がりました。

また、備蓄品(簡易トイレ等)の取扱い訓練などを定期的に行う事が災害時に役立つと思われます。

3. 訓練

市民消化隊では操法訓練やゴムボート 訓練を日頃より行っています。しかし、実際の避難所運営に向けては、地域住民一人ひとりが避難所運営者としての自覚を持てるよう、日々の防災意識の啓発や地域防災の担い手の育成、要配慮者を避難所で受け入れるための連携強化などの意見が挙げられました。特に葛飾区は福祉避難所の整備が追いついていない地域もあるため、早急に進める必要があるという声もありました。

4. 課題

地域のつながりが希薄になりがちというのは全員の共通見解でした。有事の際に地域で共助を機能させるためにも、平時からの関係づくりが欠かせません。"種を蒔く"という意味でも、お祭り等のイベントに防災を組込むことで、こども達やその保護者に楽しみながら地域防災に馴染んでもらえたら良いのではないかと思います。

そして、地域の保育施設、介護施設、医療施設などと連携して災害時の対応力を強化する事も安心で安全・快適な街づくりにつながるのではないのでしょうか。

第 16 回輪中会議ワークショップ結果報告 — Old Soldier グループ —

宇賀 俊夫

NPO ア！安全・快適街づくり

Old Soldier group の討議結果をご報告します。報告者は NPO の宇賀です。
このグループの構成員は全員 NPO のメンバーです。

まず、現在の取り組みですが、NPO では過去 10 年以上にわたり区の地域活動団体助成事業に応募して新小岩北地区の小学校を対象に『親子で語り継ぐ浸水と親水～水害時の対応～』をテーマにした出前授業を行なってまいりました。令和 5 年度からは区が新たに設けた「防災活動団体事業に対する助成金交付事業」の助成を受け、引き続き新小岩北地区の 5 つの小学校、松上小、上平井小、二上小、上小松小、小松南小の 5 校、9 組を対象に行われています。講師は主として東京大学関係者のほか地元の方で構成され、今では小学校で受講した生徒が中学・高校を経て高校生や、大学生になり講師を務めている方もいらっしゃいます。また、この授業の内容を補足するための副読本をまとめ、6 年度から教材として小学生に配布されするとともに、家に持ち帰って親子で防災について話し合ってもらふ参考書としても活用して頂く予定になっています。

また上平井中の元理科部、現在は地域防災ボランティア部の学生の部活指導や、うらら保育園での防災に関する講演会も年 1 回、これも 10 年以上にわたり行われています。これらの活動は引き続き地元の皆さまが代々自ら講師を育て、引き継いで実施していくことが期待されています。

また、ここ 10 年の間に年に 1, 2 回のペースで輪中会議を開催してきました。この会議は地元の皆さんが集まって地域の防災に関して専門家から最新の情報を聞くことと、各人がそれに先立つ 1 年間に行ってきた防災活動について報告・共有し、意見交換を行うことを目的としたものですが、その成果を何回か新小岩行動宣言として国内外に発信してきたものです。

NPO はこの他地域防災に関するシンポジウムや、ワークショップを開催してまいりましたが、今やワークショップのファシリテーターなども地元の方が担い始めており、次第に出前授業に加え輪中会議の運営も地元の皆さんが主体になって続けていくことが可能になってきたかと思われます。

今後中期的に必要なことは区内外の他の地域で防災活動に携わる団体と連携して取り組みを広域化することです。まずは荒川流域において防災活動をされ

ている団体との連携を深めていくことが必要と考えております。

それは令和元年の第 19 号台風が首都圏を襲ったとき、川下のこの地区では雨も上がり晴れてきて、水も引いてきたかに見え、避難所にいた方も自宅へと戻り始めた時、中流では調整池だけでは防ぎきれず、堤防を越えて浸水をした地域もあったことは記憶に新しいことと存じます。このとき中流では堤防が決壊しており、荒川という一つの水系における上・中・下流の関係性を改めて思い起こさせました。私たちは自分たちの地域を注視しているだけではなく、河川全域の動向に目を配っている必要があり、そのためには常日ごろからこの地域だけの活動にとどまらず、荒川の上・中・下流で洪水に備えて活動している区内外の団体とも連携をとって、流域全体の治水にも目を向けていくことが必要です。

このためここ 1, 2 年の間に東松山地区での防災活動に携わっている方や 19 号台風の際に荒川支流の河川の溢水で浸水した地域の方と交流を図ったり、埼玉県防災地下神殿や荒川彩湖公園の調節池の見学を行ったり、長瀬での乗船体験や、埼玉県立川の博物館の見学などの機会を捉えてその地域で防災活動にあたっている団体の方との交流を図ってまいりましたが、今後はこれらの団体との交流をさらに深めていくことが必要と思われます。とりあえずは加藤先生が指導されている荒川流域防災住民ネットワークの開催するシンポジウムなどへの参加を通じて交流を拡げていくのも一つの方法でしょう。

ところで NPO も 20 年の節目を超え事務局のメンバーは高齢化し、人員も減ってきているのが現状です。運営資金の調達能力も劣化しており、このままでは存続もいつまでこの活動を続けていけるか案じられる状況に立ち至っております。地元から新たに事務局で活動を行える会員をリクルートしたり、協賛会社を募集したりしながら活動を続けたいと思います。ただ、本来的には地元の問題解決は地元の方が中心になって行うのが望ましいので、近い将来には地元の皆さんが中心となって NPO の運営を引き継いで活動を続けていただけることを願うものです。

以上



ワークショップの風景



第 16 回輪中会議 ワークショップ まとめ

■ 地域の防災課題と取り組みの整理

グループ名 (A) : 岸田派

- これまでの取り組み
- 課題の発見
- グルーピング・整理

	自助 個人・世帯	共助 隣近・町会	公助 行政
短期 ～5年後	ソフト・ハードの両輪 - 防災士の資格を取得しました（東京都の助成制度活用） - 災害への備えとして町会として本所防災館に行きました。	良い取り組みを知り・広げる - コミュニティタイムライン - マイタイムライン	
	防災訓練参加者を増やす 防災訓練方法の検討 4300世帯（上小松町会・上平井・上小松→避難所） - 感想を次につなげる - 町会単位の訓練方法を変えていく - 意識を高める工夫 - まずは体験してもらう - 避難所の集約など	水害に係るシンポジウムの再実施 - 町会にてボートを購入・訓練 - PTA二上まつりでボートを出して小学生に乗ってもらう - 青戸の町会と連携 - 地域の特性を周知	ボトムアップ - 個別避難計画の策定 - 民生員の会議で防災課に講演をしていただいた。 - また、委員が改選期で変わったのもう一度依頼したい。 - 避難所と避難行動の方法について講演
	様々な団体との連携 - 園で年 1 回水害訓練 - 同法人内で講師を招き水害についての講義	普段の活動(お祭り)に 防災の要素を入れる - 多様な主体との連携 - 役割・立場・個性の違う人だちと連携 - 地域団体と被災者支援団体をつなぐ取り組み - 子ども食堂と地域団体との連携 - 災害VC関連の取り組み - 福祉施設でのBCPづくり支援	地区防災計画と繋ぐ - 民生委員が不足 - 西新小岩 4 丁目の民生委員 1 名で 100 名受け持つ
	コーディネーターの存在・発掘 - 保育園巻き込まれた方がいい（巻き込まれにくい） - 町会と連携も - さまざまな団体が連携 - 色々な人が参加 - コーディネーター的なかたがいること <社協> コミュニティーソーシャルワーカーの方に手伝ってもらう	防災意識の高い人・低い人、参加の促進方法は？ - その方の考えていることを聞き出して解決策を考える - 仕掛け作りをしていく - 楽しく	
中期 ～10年後			地区防災計画づくり
長期 10年後～		- 小学校での水害に関する出前授業 - 地域防災ボランティア（上平井中） - DIG（プログラム） - シミュレーション（プログラム） - クロスロードプログラム - 防災まちあるき - HUG（プログラム）	

■ まとめ（加藤先生のメモ）

- 訓練の工夫
- 個別の取り組みの連携化：そのためのコーディネーター必要。いい取り組みを可視化。共有。学び合い。シンポジウムの再実施。普段の取り組みに防災を付加
- ボトムアップできる仕組み仕掛けが必要である、地区防災計画として計画化
- ソフト・ハードの両輪

■ 地域の防災課題と取り組みの整理

グループ名 (B) : 結束隊

- これまでの取り組み
- 課題の発見
- グルーピング・整理

	自助 個人・世帯	共助 隣近・町会	公助 行政
短期 ～5年後	食料、物資の備蓄 - 家族の避難対策(2人) - 防災備蓄品の確保 - 蓄電池の設備を自宅に設置 - 無線の整備 - 避難用ボート	担い手の確保 - デイサービスの責任者に災害時の対応 - 町内に入り活動をする - 地域の社会福祉法人の活動や取り組みを知る	情報共有 - 災害支援、薬剤師として講演会に参加 - 区主催の医療救護訓練に参加 - 知識を得る防災研修 - 施設の地域性を正しく知る（水害時の想定） - 一人暮らし、二人暮らし、高齢者の調査を3年に 1 回実施
	- 防災カズラッパAPPを入れた。 「天サイ！まなぶくん」で息子たちと訓練した	- BCPの作成 - 水害対策の講座(1 回/年)	町、区、都、国の防災対策を知る - 地域との連携・合同訓練 - 地域での訓練参加 - 避難訓練を多くしてほしい
	安全の確保 - 大洪水予想、県外へ移動 - 避難場所の確認 - 家族の集合場所	- 町会では毎年防災訓練を秋に行なっている 3ヶ月に一度、区の防災機器の点検を行なっている - ボート訓練(操作・乗り降りの補助)	コミュニケーション - 米寿100歳の方にお祝いを届けているその時に様子を伺う - 地区民・児・定例会で困りごとを話し合っている。（子供から高齢者まで）
中期 ～10年後		連携 - 全国に防災支援法人 - 防災訓練実施の交渉(小学校) - 近所との避難訓練 - 事務所ごとの所在町内と連携 - 保育園、介護施設との連携 - 小学校との連携	- 外国人の方への情報共有 - 良いコミュニケーションによるチームワーク - 見守りをした時に大きな名刺入れる（顔をつなぐ）
長期 10年後～		- 小学校(3 ～6 年生)出前授業 - 水害対策 - 東京マイタイムライン	

■ まとめ（加藤先生のメモ）

- 短期：備蓄物資の確保、安全な場所の確認
- 中長期：町会防災訓練、担い手確保、小中学生の水害に対する関心は育っているがアクセス先がない。外国人との連携
- 短期：情報共有、各主体の取り組みを知る。
- 地域内コミュニケーションを深化。個人情報など、命を守るを主軸に、
- 長期：各者のBCP作成にとどまらず、医療介護福祉関連分野を繋ぐ（連携）工夫が必要。

■ 地域の防災課題と取り組みの整理

グループ名（C）：CCC

- これまでの取り組み
- 課題の発見
- グルーピング・整理

	自助 個人・世帯	共助 隣近・町会	公助 行政
短期 ～5年後	BCP - 障害施設の運営者とBCP検討 - ゴムボート購入 - 避難訓練 - ハザードマップの準備・確認 - 避難所・給水所などの確認 - 避難場所連絡策の確認 BCP 検討協力	訓練 - ゴムボート訓練 - 月 1 回以上市民消防団が訓練 - 年 1 回の防災訓練 - 障害施設の waters 研修 - ボランティアセンター企画の街歩きに参加 - 生活再建の研修、企画提案 - タバトイフェス災害食とトイレのお祭り企画 - 避難所運営委員会の参加 近所との合同訓練 町会員への広報	
中期 ～10年後	備蓄 - 自家発電機 - 備蓄品の整備(3F保管) - 非常用食料の備蓄 在宅避難の備え トイレ問題 ポータブル電源	地域のつながり - 近隣中学校と連携して災害対応 - 町会名簿の作成 地域住民同士のコミュニケーション ご近所との共助 防災倉庫設備	要配慮者 - 独居高齢者の確認 - 要配慮者名簿の活用方法 - 名簿作成の拒否が多い - 要配慮者の個別避難計画 - 避難要支援者を実際に支援するのは誰か - 行政職員の防災意識低下
長期 10年後～	敷地の高台化	避難所 - 避難所の運営者不足 - 町会内避難所運営役員の高齢化 - 避難所の整備・訓練 - 福祉避難所の整備	

■ まとめ（加藤先生のメモ）

- BCPの策定。CCP、コミュニティ継続計画
- 訓練。地域の希薄化。イベント
- 福祉避難所：避難所運営。アレ様避難者様（省需要）を防ぐ啓発

■ 地域の防災課題と取り組みの整理

グループ名（D）：B 以外

- これまでの取り組み
- 課題の発見
- グルーピング・整理

	自助 個人・世帯	共助 隣近・町会	公助 行政
短期 ～5年後	(個人) 備蓄 - 食料の備蓄(缶詰、水など) - 照明付きバッテリー - 災害時用のコンセント設置（電源） 備蓄の数や期限の確認 避難所での必須品の確保 家族とのコミュニケーション 家族と災害について会議を開く 情報収集 - 避難所支援に関する講座を受講 - 住んでいる地域の川の情報を調べた - 避難訓練に参加 災害に関する情報発信 実際に災害が起きた時に生きられるのか（何日間、何が必要か） 今後のために - どんな状況でも過ごせる考え方や過ごし方を身につける - 自分を守るための手段を考える（筋トレ、安定剤） - 備蓄品の再確認	地域とのコミュニケーション - 外部深淵を受け入れる受援力の向上 - 連携・協働できる人や団体の発展 - 地域・NPO・NGO・行政との3者連携の構築 - 地域の訓練への参加（本当に助かるのか？） - 外国人への支援 共助の物資 - エンジン付きのゴムボートを用意している（水害用） - 発電機を用意 - 防災訓練でトイレ、歯磨きなど配布 体験 - とりあえず、やってみる 情報 - 新小岩公園へのひなで大丈夫？ - 避難場所、本当に小学校の屋上で大丈夫？ - 職員たちへの啓蒙災害とか - 実際三日分の食事というけれど…それって今も？ (地域・町会) 備蓄 - トイレの配布個数が不足 - 使用した事がない - 食料の備蓄	他区や他県との連携や協働の策定など
中期 ～10年後			
長期 10年後～			避難先の確保 公園の高台化 広域避難先の複数確保 サッカー場 高い場所（水）と広場（地震）

■ まとめ（加藤先生のメモ）

- 物資確保、家族内話し合い。
- ハード：避難しやすい環境づくり（公園整備）、地域情報の共有
- 南北方向の交通確保（新金線）

■ 地域の防災課題と取り組みの整理

グループ名（N）：Old Soldier

- これまでの取り組み
- 課題の発見
- グルーピング・整理

	NPO		
短期 ～5年後	NPO活動の計画化 - シンポジウムの開催 - 出前授業 - 部活支援 - 副読本作成 - 水位表示ボール設置	NPOスタッフ補強 - NPOの高齢化 - スタッフの確保・補強 - 子供たちを活動に参加させる - 若手の人を勧誘する - 計画運営も地域へ（NPOは助言）	現場・事実から学ぶ - 中川耐震豊胸工事見学など - 現地見学会・意見交換会の充実
	議論を深める場づくり - シンポジウム・ワークショップの回を重ねる - 課題をさがす	出前授業の拡充	防災訓練において官民連携 行政による水害避難訓練を支援
中期 ～10年後		防災デジタル化	
		官・民・地域の橋渡し - 新小岩北地区町会との交流 - 町会から住民から相談を受ける - 行政との橋渡し役を果たす	浸水対応の促進支援 - 浸水対応型市街地の構想 - にこゆ建設に伴う避難施設 - 浸水対応型市街地：行政と地域との連携
		財源確保	
	パネル展示を重ねる	他地域と連携 他の地域のまちづくり団体と連携して取り組みを広域化	新しい活動モデル 協賛会社の募集
長期 10年後～		事務所の移転	

■ まとめ（加藤先生のメモ）

- 行政、地域、市民を繋ぐ役割
- 高齢化、スタッフ不足、財源不足：出前授業から大学生までの間、担い手。
- 他地域との連携、浸水対応化の促進を側面支援

■ 地域の防災課題と取り組みの整理

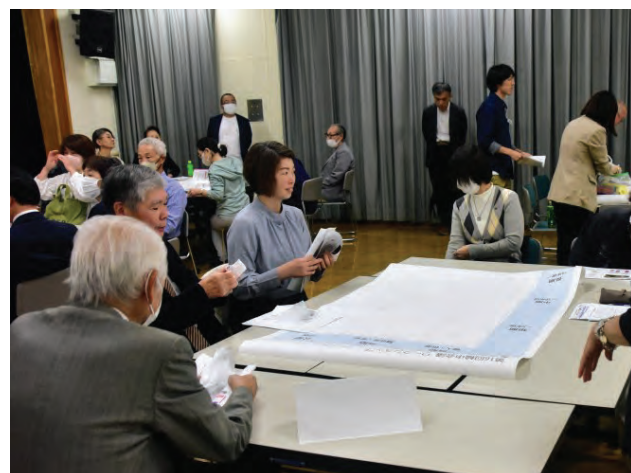
グループ名（S）：X 世代

- これまでの取り組み
- 課題の発見
- グルーピング・整理

	自助 個人・世帯	共助 隣近・町会	公助 行政
短期 ～5年後	まず自分の身を守る - 防災グッズ・防災カバン - 家でできる地震対策（家具の固定） - 区役所の防災担当者とのヒアリング - 出前授業を受ける	地域との連携 - 近所の人とする避難 - 上中、防災倉庫の確認 - ボート訓練 - 街歩き（町会の方と） - 天サイ！まなぶくんを使った街の点検 - 荒川地域との交流 - 防災マップの作成（地域防災ボランティア部） - 文化祭での発表 - 登下校で使う道の安全確認	行政との連携 - 区の防災対策を学生に知ってもらう - 備蓄品の見直し（食べられないものがあるかなど） - 学校での避難訓練
中期 ～10年後		学校教育 - 出前授業（小中学生側）→将来につなげる - 出前授業・部活支援（人材育成） - 学生への関心・知識を広げていく - 学校現場に対する理解	
		持続可能なつながり - 地域防災ボランティア部の存続 - 他ボラOBOG会 - 学生の地域への連携	学校設備の改善 - 排水設備の強化 - 学校の浸水対応化
長期 10年後～		新しい技術、視点を取り入れた教材づくり - 副教材の作製 - アプリの開発・DXの活用 - 学生の目線を生かした教材づくり - 副教材：行政との連携	

■ まとめ（加藤先生のメモ）

- 身を守る。他の組織の取り組みを知る。
- 学校教育：出前授業、副教材、学生らしい教材。学校をよく知る地域人材＝生徒・学生
- ……………アイデアはいろいろありそう。



事務局から 2023



かつしかボランティアまつり参加レポート

古川 修

NPO ア！安全・快適街づくり

2023年11月19日、葛飾区地域活動支援センター（ウェルピアかつしか）にて、地域社会への貢献と連帯を祝う「かつしかボランティアまつり」が開催されました。この一日限りの祭典は、地元NPOの活動紹介や、防災情報可視化アプリ「天サイ！まなぶくん」の体験コーナーなど、多彩なプログラムで地域住民の参加を促しました。



NPO事務局の古川と山形によって運営された「天サイ！まなぶくん」体験コーナーは、多くの来場者で賑わいました。参加者は、アプリ版「天サイ！まなぶくん」とその進化形「天サイ！まなぶくんII」を通じて、実際に赤旗を立て、マップ上での変化を確認することができました。この直感的なデモは、白旗に変わるまでのプロセスを体験することで、アプリの有用性を実感する絶好の機会となりました。

当日は111人を超える参加者が訪れ、「災害時に役立つアプリだと思った」「実際に体験できてよかった」「分かりやすい説明で理解しやすかった」など、アプリの有用性を実感する声が多数寄せられました。この盛況ぶりは、地域コミュニティにおける防災意識の高まりと、技術を活用した学習への関心を示すものであり、今後の防災教育における新たな可能性を提示しています。

「かつしかボランティアまつり」のようなイベントが、地域住民の安全と防災に対する意識を高め、さらには地域社会の結束を強化する一助となることを願っています。来年もまた、新たな発見と交流の場として、この祭典が開催されることを楽しみにしています。

第72回東京都社会福祉大会で受賞 —受賞した地域福祉支援貢献団体400団体を代表し活動紹介—

宇賀 俊夫

NPO ア！安全・快適街づくり

当NPOは令和5年12月22日に東京都庁で開催された第72回東京都社会福祉大会で地域福祉支援貢献団体として東京都社会福祉協議会から表彰されました。その際400余りの受賞団体を代表して成戸理事長が壇上に上がり、スライドを使って「防災“も”街づくり」をキャッチフレーズに行っている輪中会議、小学校への出前授業、“近所で近助”を目的としたアプリ「天サイ！まなぶくんII」の開発などの活動を紹介し、司会者からの質問に応じました。これも長年にわたる葛飾区新小岩地区での地道な活動が地域の福祉の増進に寄与したものと存じ、今後も継続して活動が続けていく所存です。



関東地域づくり協会助成（広域治水への交流） 第1回荒川上流見学会/第2回荒川下流見学会報告

山上 忠

NPO ア！安全・快適街づくり

本事業は、荒川流域全域にわたる「広域治水」の枠組みを確立するため、NPOや地域住民が連携して実施した交流事業です。令和6年2月から3月にかけて、荒川上流と下流で2回の見学会を開催し、計55名が参加しました。第1回見学会では、学識経験者による荒川の防災に関する講義や小型船での川の視察が行われ、長瀬での歴史的な水害跡の見学を通じて地域の地形や治水について学びました。第2回では、荒川知水資料館や岩淵水門の見学を行い、台風19号時の荒川の役割について学びました。両回を通じ、上下流の住民や参加者間の交流が図られ、防災への意識が高まりました。本事業を通じて、今後も世代を超えた連携を図るため、定期的な実施が望まれることが確認されました。

■ 第1回（令和6年2月10日）



車内での参加者同士の交流



埼玉県立川の博物館



長瀬（荒川沿いの街の見学）



長瀬（水上から荒川を見る）

■ 第2回（令和6年3月24日）



荒川ロックゲート



荒川ロックゲート 岩淵水門（青水門）



旧岩淵水門について学芸員の説明を聞く参加者



令和5年度葛飾区防災活動団体助成事業
『親子で語り継ぐ浸水・親水～水害時の対応～』について

増澤 一朗

NPO ア！安全・快適街づくり

『親子で語り継ぐ大水害時の避難についての出前授業等』は東日本大震災を機に、子供の命を守る「てんでんこ」を新小岩の児童・生徒に身に付けて欲しいと、故石川前理事長は願い、平成25年葛飾区協働事業が衣替えした葛飾区地域活動団体助成事業に応募し、以降連続して「出前授業等」が採択されて来た。

一方、葛飾区は新たに、防災人材育成と防災意識の啓発を目的に、令和5年2月「葛飾区防災活動団体助成事業交付要綱」を制定、この要綱に沿った募集が、令和5年2月24日から3月10日にかけて行われ、本出前授業等も申請し、採択となり6月から葛飾区立二上小学校を皮切りに出前授業等を行った。

以下活動概要の一覧表を紹介する。

令和5年度葛飾区防災活動団体助成事業

No.	対象校	学年	担当	講師	場所	開催日時	備考
①	二上小学校	6	増澤	寺島講師	同校体育館	6月10日(土) 第3時限 10:40～	杉本副校長先生窓口
②	上小松小学校	5	増澤	中川講師・南講師 ・増渕講師	同校体育館	7月8日(土) 第1時限 8:30～	富樫副校長先生窓口
③	二上小学校	5	増澤	中川講師・岸田 講師	同校体育館	9月9日(土) 第2時限 9:35～	杉本副校長先生窓口
④	松上小学校	5	増澤	竹本講師・岸田 講師	同校体育館	9月11日(月) 第6時限 14:10～	浅山副校長先生窓口
⑤	松上小学校	3	増澤	荳野・南・小豆嶋 各講師	同校体育館	9月19日(火) 第5時限 13:20～	浅山副校長先生窓口
⑥	小松南小学校	4	増澤	竹本講師・岸田 講師	同校体育館	9月21日(木) 第5時限 13:30～	森田副校長先生窓口
⑦	松上小学校	6	山上	寺島講師	同校体育館	9月26日(火) 第4時限 11:30～	浅山副校長先生窓口
⑧	上平井小学校	6	宇賀	荳野講師・南・小 豆嶋講師	同校体育館	10月14日(土) 第2時限 9:15～	江方副校長先生窓口
⑨	上平井小学校	4	宇賀	荳野講師・南・小 豆嶋講師	同校体育館	10月14日(土) 第3時限 10:15～	江方副校長先生窓口
⑩	上平井中学校	部活	南	南講師	同校体育館	10月29日(土) 9:30～9:45	太田先生窓口
⑪	うらら保育園	父兄	宇賀	中村講師・水村 講師	同園講堂	12月16日(土) 10:30～12:00	久保下先生窓口
⑫	上平井中学校	部活	南	南講師	長瀬・博物 館	2月10日(土) 8:00～17:30	山森先生顧問窓口
⑬	上平井中学校	部活	南	南講師	知水資料館・ ロックゲート・ 川の駅	3月24日(日) 12:30～18:00	山森先生顧問窓口

うらら保育園講演会 概要報告

増澤 一朗

NPO ア！安全・快適街づくり

- (1) 日時：令和5年12月16日「土」10：30～12：00
- (2) 場所：清遊の家「うらら保育園講堂」
- (3) 対象：同保育園園児保護者と職員 12名
- (4) 講師：芝浦工業大学システム理工学部 中村 仁教授(同大副学長)
同大学院生 水村 講師
- (5) 内容：「大水害時の避難について」～新小岩北地区を対象として～

薄ら寒い師走の朝、定刻の十時半会場の講堂に、赤ちゃんや未就園児を連れた父兄と職員が三々五々、床に敷かれた座布団に座り、講演が始まった。

講師は、「今日は葛飾区が発行している『水害ハザードマップ』を中心 お話します。

皆さんの家庭に配られていますのでご覧になっていると思いますが、改めて西新小岩に絞って見てみましょう。この地域も他と同じように水面より地盤が低いゼロメートル地帯です。

ゼロメートル地帯と言っても前から低かったのではなく、工場の地下水汲み上げで地盤が下がったからです。

ですから、一たび大雨が降って洪水になると付近一帯は、電柱に貼られている赤い帯の深さまで浸水します。スクリーンに有様に大人の背よりも上まで浸水します。

浸水した水は、今度は堤防に遮られ出て行きませんからポンプにより川へ排水します。

次の画面は、中川水面と、堤防通りの家並みを映しています。水面を横に伸ばすと家の二階へぶつかります。西新小岩も堤防や護岸で守られています。

地域を守る堤防や護岸は国や東京都が治水対策を強力に進めて居ます。

例えば国は、八ッ場ダム completion と第一に続いて第二雨水調節池や京成線のかさ上げ、そして高規格堤防を工事中ですし、都は中川七曲りで耐震補強工事を行っています。

次に、夏のゲリラ豪雨のように短時間で強く雨が降ると忽ち道路が冠水したり、アンダーパスに水が流れ込みます。

これは雨水を取り入れる下水道管が、急で多量な雨水を取り入れられず道路や低い個所に流れ込むからです。

では内水氾濫が起きた場合の浸水状況ですが、総雨量 600mm 近くで 1 時間に 110mm を超える大雨が降った、平成 12 年の東海豪雨を基に想定したものです。西新小岩地区で 50cm～1.0m 未満の地域が多くあります。

次が荒川浸水想定区域図です。これは荒川流域に 72 時間総雨量 600mm 以上の雨が降ったと想定しています。西新小岩地区の殆どが 3m～5m 浸水するとなっています。この講堂の監査廊が 3m くらいで、5m ですと天井近くまで水が来、しかも水が引くのに 2 週間以上はかかると想定しています。

次が高潮による浸水深と浸水継続時間の想定図です。

これは昭和 7 年の室戸台風の最低気圧 910hPa を基にしています。

この図面で西新小岩地域は、浸水深さ 3m～5m、浸水継続時間は 1 週間以上続くと想定しています。

次の新小岩を中心とした何枚かの航空写真は、私がヘリコプターから撮り、その先は新小岩北地区が洪水で水に漬かった際のイメージ写真で、荒川下流河川事務所が編集した物です。ご覧のように新小岩は川の占める面積が広く、川があって街がある印象です。

こうした川に囲まれた街に住む私達が一旦大雨に見舞われ、避難しなくてはならない場面に居合わせた際、安全・確実に避難するにはどうしたら良いでしょうか？

それが、『大規模水害時の避難行動フロー図』です。

避難指示が葛飾区より発令されたら、対象地域全ての方が浸水しない地域の避難所へ避難しましょう。氾濫する可能性が高まると、浸水想定区域内の避難所は閉鎖されます。

葛飾区全域が浸水する恐れがあるため区外の安全な地域に避難しましょう。

避難指示に気付かず逃げ遅れた方は、「洪水緊急避難建物」は新小岩北地区管内の各小中学校の 2 階以上です。

次に荒川が新小岩駅南、総武線の橋付近で氾濫した場合、浸水深は 3m 以上 5 m 未満と想定されていますから兎も角、東の方へ避難するか近くの小中学校か、区施設の 2 階以上へ避難しましょう。

その際、障害のある方・高齢者の方々はじめ配慮が必要な方々への助けをお願いします。

一方避難所は全ての方々を受け入れられません。従って日頃から遠くの親戚や知人等と連絡を取り合うことも必要になります。

次に川の水位をテレビの d ボタンやパソコン或いはスマホで確認することも大事です。各川を管理している河川事務所のホームページから見知る事も出来ます。

更に大切な点は、「警戒レベル」に応じて行動して下さい。レベル 1～2 は気象庁が発表し、レベル 3～5 は葛飾区が発令します。

レベル 3 で高齢者や病弱者は避難し、健常者は避難準備をして下さい。

レベル 4 で全員避難して下さい。レベル 5 は災害が発生しています。逃げ遅れた方は屋内の高い所に避難し、命を守って下さい。

では、川の危険水位を測る場所ですが、岩淵水門の処が水位を観測する場所ですので、私達は「荒川下流河川事務所のライブ配信で見ることができます。

又、避難情報を ①区の防災行政無線 ②区のホームページ ③J：COM 東葛・葛飾 ④葛飾区安全・安心情報メール ⑤葛飾区ホームページ ⑥SNS（フェイスブック、ツイッター） ⑦かつしか FM からも見られます。（事前の登録をお願いします。）

逃げ遅れた方が自宅に留まる時は、水道・ガス・電気・電話・トイレが使えません。十分な水・食料・簡易トイレ・LED ライト・卓上コンロ・発電機等が必要になります。

更に、荒川と江戸川が同時に氾濫するような場合、葛飾全域だけでなく江戸川・足立・江東・墨田の 5 区が浸水する恐れがありますので 1 日前に、江東 5 区が連携して「出来るだけ遠くの安全な地域へ避難して下さい。」と広域避難指示を発令します。

一方、災害時に力を発揮するのは、普段挨拶すら交わしたことの無い隣近所の方々同志の自発的力を合わせた助け合いです。

そこに自治町会が加わることにより、助け合い・協力は何倍にもなりますので、自治町会に入られ、日頃から顔見知りになるようお勧めします。

その他新小岩北地区では水害に対し、NPO とか専門家集団等多様なグループが多様な取り組みをしています。

最後に『風水害による家屋の被害を抑えるために』で、家の周りの点検、整備、土のう、水のう、マイ・タイムライン自習、非常時持出品チェックリスト、我が家の防災メモ等をお忘れなく。以上で私のお話を終わります。有難う御座いました。」

この後参加者から質問が2点あった。

質問①

広域避難の場合、ここに居ては危険です。避難して下さい。と言われても直ぐには避難出来る地域は見当たらない。

答え

江東5区連絡協議会は、250万人と言われる方々の避難先はここです。と示していません。『今は、自分達で標高が高く広い土地を目指して下さい。』とお答えするだけです。唯、同協議会は現在避難先の洗い出し作業は進めているのではと思います。

質問②

浸水の深さはどうやって出すのですか？

答え

今迄に降った記録的大雨や大型台風による降水量を、新小岩に当てはめてその地点毎の高さと水面の高さから浸水深さを算出します。例えば、総武線新小岩駅西側の荒川橋梁付近が決壊して街中に流れ出たとしますと、水の勢いと流れ出す量及びその広がりをシミュレーションして算出します。

◎ 参加者の声を添えます。

本講演に参加した理由

- (一) 住んでいる地域が水害の危険があるため。
- (二) 最近引っ越して来、水害の知識を得たかった。
- (三) 以前大きな台風が来た時、避難するか迷ったものの、行動出来なかったので知識を付けたいと思っていました。(近所の方は避難している様子でした。)
- (四) 子供が居る中で、自分でどのような行動が出来るか、改めて考えることが出来ればと思い参加した。

「上平井中学校地域防災ボランティア部 学芸発表会」
概要報告

増澤 一朗

NPO ア！安全・快適街づくり

- (1) 日時：令和5年10月28日「土」 9:30～9:45
- (2) 場所：上平井中学校体育館
- (3) 対象：生徒478名・教職員29名・保護者・地域住民45名
- (4) 内容：
穏やかな晩秋の校内は静まり返って、暗幕が張られた体育館内だけ吹奏楽に合わせた手拍子が鳴り響いていた。
アンコールが終わると吹奏楽部員全員が深々と一礼退場し、代わってボラの絵がスクリーン一杯に映り、傍らに3人の地域防災ボランティア部員が立ち、「災害発生時に私達の活動を参考にして下さい。」と挨拶した途端、震度5強の地震が発生、部員の一人が身をかがめ、他の二人が強いゆれの収まった後の行動に注意する大切さを、マスコットキャラクター永遠の4歳「チーボラ」が説明した。
チーボラ君は「現在避難に関する決められた警戒レベルは、3で高齢者や病弱者が避難し、警戒レベル4は直ちに全員が避難すること。又、上平井中学校が避難所に指定されている。」こと等を紹介した。
主な活動の紹介では、1月末に埼玉県東部の首都圏外郭放水路の地下神殿を見学し、その規模の大きさに圧倒され、司会者が地下神殿の役割は何かとクイズを出し、中川の洪水を防いでいることを強調していた。
夏には上平井祭りに参加し、災害時におけるボランティア部の活動をPRする様子を動画で報告した。
最後にマスコットキャラクターのチーボラは普段何処に居るかのクイズを出し、チーボラは「人を助ける心は皆の心の中に居ます。」と種明かしをし、避難の大切さと地域との交流を深め、いざと言う時に活動できるよう常に心掛けている.と話して紹介を終わった。
持ち時間15分間を有効に、活動の様子を部員全員が次々に説明し、大変分かりやすく聞く生徒達を盛り上げて居た。

上平井中学校地域防災ボランティア部 「荒川上流域を訪ねる」 参加報告

増澤 一郎

NPO ア！安全・快適街づくり

- (1) 日時：令和 6 年 2 月 10 日「土」 8:00～18:00
- (2) 場所：埼玉県立川の博物館、荒川長瀬溪谷
- (3) 参加者：クラブ員生徒 6 名・同卒業生 1 名、顧問教諭 1 名、地元町会員と地域住民 11 名、大学生 4 名、院生 3 名、公務員 2 名、NPO5 名 計 33 名
- (4) 内容：

バスは、午前 8 時過ぎ新小岩駅東北広場を 21 名が乗り、一路長瀬へと出発した。途中東武東上線高坂駅で 11 名が乗り、予定通り 11 時前秩父鉄道長瀬駅に到着し、歩いて程なく岩畳に着いた。

長瀬は名の通り切り立った岩の間を川が流れ下っており、雨が少ないこの時期、名物の川下りの代わりに、川幅が広く流れの緩やかな瀬場を炬燵船で廻った。船中から見上げる岩壁に、2019 年台風 19 号が上流から流れ下った際の痕跡と、地質学的にも珍しい結晶片岩の壁を炬燵船から具に観察出来た。

殊に台風 19 号の大雨は、船着き場へ下りる階段の数段上に迄爪痕を残しており、上流部のダム群が放流せざるを得ないほどの降雨だったと思われた。

下船後、道路の両側に土産物店が並び、次々と試食を勧められるまま特産品の漬物（しゃくし菜漬）とクマザサ饅頭を買い、次の目的地へと向かった。

寄居町に入ると、バスからも観覧車を思わせる超大型水車が荒川上流と中流の境辺りに見えて来、やがて我が国最初の川の博物館に到着した。

博物館は、荒川に向かって傾斜した位置に近代的スマートな円形の本館やレストハウスが並び、一帯が子供から大人まで楽しめる幾つもの遊び場が広がっていた。

時計は既に 1 時近く、レストハウスで仕出し弁当を平らげると、早速各自思い思いに博物館を 3 時過ぎまで自由に参観することとなった。本館内は見飽きない程の展示物が工夫を凝らして並べられ、川の生き物を何種類も目の当たりにした。

中でも屋外に、荒川が源流から河口までの 173 km を 1/173 の縮尺にして辿れる精緻な大模型が横たわり学芸員の説明に傾きつつ、荒川全体を居ながらにして俯瞰出来た。

次いで館内の大画面には、秩父特有の伐り出した材木を瞬時に流し落とす「鉄砲堰」の一部始終を音と共に映し出した。

又、第 1 展示室には「鉄砲堰」の模型が置かれ、横板を見学者が外して水が

吐き出される瞬間を実感していた。

自由時間は瞬く間に過ぎ、集合写真を撮り終わったところで、バスに戻り 3 時半には博物館を後にし、途中高坂駅で三分の一の参加者が下車し、6 時前に新小岩駅東北広場に無事戻った。天候にも恵まれ荒川の全容も知れ、実り多い見学会となった。



荒川上流見学会（長瀬にて）



荒川下流見学会（岩淵水門にて）

上平井中学校地域防災ボランティア部 「荒川下流域を訪ねる」 参加報告

増澤 一朗
NPO ア！安全・快適街づくり

- (1) 日時：令和 6 年 3 月 24 日「日」 12:30～17:00
- (2) 場所：知水資料館、荒川ロックゲート、川の駅
- (3) 参加者：クラブ員生徒 7 名・同卒業生 1 名、顧問教諭 1 名、NPO5 名
計 14 名
- (4) 内容：

冷え込んだ曇り空の昼下がり、チーボラと NPO のメンバーは、東京都北区にある「知水資料館」を訪ねた。

ベテランと若手の女性説明員が我々一行を迎え、資料館と、赤と青の両水門を案内して下さった。荒川下流部 22 km は、明治 43 年の大洪水をきっかけに、人と機械で新たに掘った川で、11 km²の土地と 1,300 戸の建物を買取り、十余年間の工事の末、10 月に放水路通水 100 年を迎えた。

資料館 1F で、荒川の全体像を知り、2F では、プロジェクタを使い動画で工事や、洪水による被害の甚大さを知り、日頃から用意して置く非常持ち出し品の展示物を見て、避難所の生活に思いを巡らせた。

次に赤水門と青水門を間直に眺め、役割りと効果を知り、最後に資料館前で懇切丁寧に説明して下さったお二人と記念写真を撮って、次のロックゲートへと向かった。

南北線と都営新宿線を乗り継いで東大島駅で下車歩くこと 15 分余りで、荒川ロックゲート（閘門）に着いた。地盤沈下の激しい江東デルタ地帯を水害と地震の脅威から守るため強制的に旧中川の水位を下げ、船の往来も出来る様にした施設である。

ロックゲートは、時間内は解放され、堤防の上から更に 15m ほど階段で上ると視界が開け、東京湾や近在の市街地が一望に見渡せる展望台となっていた。

生憎船の航行は無く、閘室内の水位は下がったままだったが、門扉の開閉で水位差を解消する仕組みを理解し、一行は最後の視察場所「旧中川・川の駅」へと移動した。

川の駅は旧中川に面し、水陸両用バスの停留所になっており、江戸末期まで船の出入りを取り締まる川の関所が置かれ、塩の運搬も盛んに行われていた。

ここ川の駅で、今回の荒川下流部視察を終了となり、一行は本八幡駅で学生と NPO は解散し、今回の視察・調査は無事終了した。

荒川流域防災住民ネットワーク 2023 防災アイデア交換会 参加報告

増澤 一朗
NPO ア！安全・快適街づくり

1. 日時：令和 5 年 11 月 19 日（日） 13:00～16:30
2. 場所：北区立浮間中学校体育館
3. 内容：

会場の浮間中学校へ向かう途中、キッチンカーが並び、人だかりする浮間公園が目についた。公園は秋のイベントが開かれ、昼時とあり来園者で大賑わいだった。

定刻前に会場の浮間中学校体育館へ着くと、既にグループ分けされたテーブル席は大方埋まり、開会を待つばかりだった。

午後 1 時司会者の、交換会の概要説明があり、続いて来賓北区医師会会長、同じく北区危機室長の挨拶があったものの、当初出席予定の荒川下流河川事務所出口所長は急遽所用が出来て欠席された。

次いで、今日の交換会参加の背中を押した、当 NPO 理事で東京大学教授加藤先生の「荒川が溢れる前に、みんなが助かるために必要なこととは？」の講演が始まった。

先生は普段と変わらない口調で、以下のお話をされた。

「近年気候変動が極端になっています。例えば台風の発生数が以前に比べ減っているものの、巨大台風や、川の容量を超えて発生する水害の頻度も多くなり且つ、被害の大きさ等も以前と違って来て、過去の経験が通用しない時代を迎えています。

これに伴い一つの川を一河川管理者だけが見守るのではなく、あらゆる分野・全ての人が川に関わる必要が生じています。即ち流域治水とか広域治水の考えと併せて、災害への防災が必要になって来るのは必然の理でもあるのです。

そこでの考えは

- ・水防災組織を再構築し、水害に立ち向かう社会を創り出すことです。
- ・人間の力は自然の力に対し無力ですから、皆で我慢を分かち合う。
- ・流域は、その地域に関しては運命共同体ですから、運命共同体は努力を皆で分かち合うものという考えです。
- ・例えば、大井川の船方屋敷、千葉県トンネルが下流域の洪水を防いだ等の例にその例が見られます。

次に、防災街づくりの勧めについてお話しします。

私がフィールドワークを行っている徳島県伊座利地区は海岸沿いにあり、津波が来る前に人が居なくなるのではと危惧される寒村です。

伊座利地区の方々は自分の住んでいる地域のハザードマップをきちんと理解し、

- ① 災害をイメージしリスクを冒すものの、得られる地域の幸せの大切さを自覚している。
- ② 自助・共助・公助が低いレベルに留まっても地域の人達が互いに幸せな気分で居られることを理解している。
- ③ 地域の人達が互いにどこまでやれるのか、互いの力を理解している。

これらの点は、自立発展性・創造性・総合性等を理解し、自覚して居られるとも言え、防災の日常の課題を考え、行動する上で言えば、市民が先行し、参加する市民の活動が多様性を有して居られるとも考えられます。

即ち、防災も街づくりに通じると考えられます。

処で、避難所についてはどうでしょうか。以前と変わらないのではないかと思います。

先ず、避難して来る全ての人に対応する要員が少なく無理です。

ではどうしたら良いのでしょうか？

太る需要を社会に頼らず対応するには、資源を膨らませることです。

資源を膨らませるとは、眠っている資源を活用する。例えば、パチンコ店の駐車場等はどうでしょう。街には使える資源が他にもある。これらの資源を活用したいものです。

又、誰も取り残さないため、要援護者名簿の作成が欠かせません。

そのためにも

- ・個別避難計画を作る。
- ・OKY (お前、こっちに来て、やって見なさい。)
- ・地域社会での課題を共有しましょう。
- ・課題を共有すると
 - * 一見安心
 - * 隙間を理解する。
 - * 既成概念を超える
 - * 皆で一緒に作り上げる
 - * 机上でなく実践するようになる
 - * 多様性を理解するようになる。
 - * いざという時機能するために普段からのコミュニケーションが欠かせない。
 - * 防災だけでなく地域の資源を大切にする。

これまで色々お話ししましたが、今日の纏めとして

1. 大都市のニーズは膨大で、対策は焼け石に水を理解する。
2. 命からがら避難した後のことを頭に入れて置く必要がある。
3. 雨が止んだ後、晴れた際の水位が高くなる川の仕組みを知る。

誰も取り残さ無い為には、早目に避難するに尽きます。

これで時間も来ましたので私の話は終わりにします。有難う御座いました。」

次に、立場の違う4名の方々の内3名の方が、台風第19号の際のご自分の切実な体験を話され、1名の方が流暢な日本語で、外国人故の災害時の避難の難しさを訴えていた。

皆さん一様に、深刻で過酷な経験を淡々と語られ、聞く立場の者、皆無力さを感じたのではないか。

休憩を挟み 14：30 から 6 つのテーブルに分かれ、ワークショップが始まった。

慣れた司会の方が次々とファシリテーターを指名し、洪水の際皆が助かるには一人一人どうすれば良いかのテーマを与えた。

机上には大判の用紙とマジック、貼り付け用カラーメモ用紙が置かれ、参加者の自己紹介が終わったところで、ファシリテーターが「台風第19号で、自分が置かれた状況・過ごし方・困った点・して欲しかった事などから『洪水の際、皆が助かるには一人一人どうすれば良いか。』を発言するよう。」問題提起した。

ファシリテーターの巧みな誘導により各班は、徐々に話が盛り上がり、各テーブルのメモ用紙が次々に大判の用紙に張り付けられた。

途中、班の一人の方が班員に『避難用の携帯に便利な小物です。』と言ってホイッスルを差し出し、有り難く頂いた。

時間は瞬く間に過ぎ、ワークショップに次いで、今日の来賓者と講演者及びコーディネーターによるネットワーク作りのための活発な意見交換が行われた。

最後に「荒川流域防災住民ネットワークの提言・展望」が読み上げられ会は終了した。

古いも若きも又、健常者も体に障害を持つ方も皆が持てるものを出し合い、助け合う一つの社会が共有できた時間を過ごせた気持ちになって会場を後にした。

NPO ア！安全・快適街づくり ～葛飾区新小岩北地区における取り組み～

作成：NPO ア！安全・快適街づくり
東京大学 加藤孝明研究室

新小岩北地区での取り組みの概要

広域ゼロメートル市街地（ゼロメートル地帯に広がる市街地）は、水害発生時の避難や被災後の復旧・復興に大きな課題を抱えている。

広域ゼロメートル市街地に位置する葛飾区新小岩北地区では、新小岩北地区連合町会、当NPO、葛飾区、専門家など、多様な主体が協働して、「防災“も”まちづくり」によって、大規模水害に備える取り組みを進めてきた。

新小岩北地区では、定期的に、多様な主体が一堂に集い、それぞれの取り組みにおける経験や工夫を共有する「輪中会議」を開催し、次の展開を話し合っている。

世代を超えた持続性を創出するために、当NPOは、大学、地域と協働して、小学校への出前授業や中学校の部活支援も行っている。

浸水への備えを有し、かつ、河川の恵みも活かした「浸水対応型市街地」を長期的に形成する方法についても議論が始まっている。



たとえば
「防災“も”まちづくり」 ← 豊かな暮らし + 親水まちづくり + 高齢社会対応 + 防災 + 色々

防災“だけ”のまちづくりではなく、
防災“も”を含めた総合的な視点で取り組むまちづくり

防災“も”まちづくりを持続的に進めるためのキーワード 4 + 1

①総合性

- 防災以外の地域課題、他の目的もあわせて取り組むこと

②内発性

- 自分たちが必要だと思うから、やりたいと思うから取り組むこと

③自律発展性

- 取り組みの内容が雪だるま式に膨らんでいくこと

④多様性

- 参加者の立場やキャラクター、参加組織、活動内容が多種多様であること

+

⑤市民先行・行政後追い

- 先行的な市民の取り組みを、後から行政がきちんとサポートすること

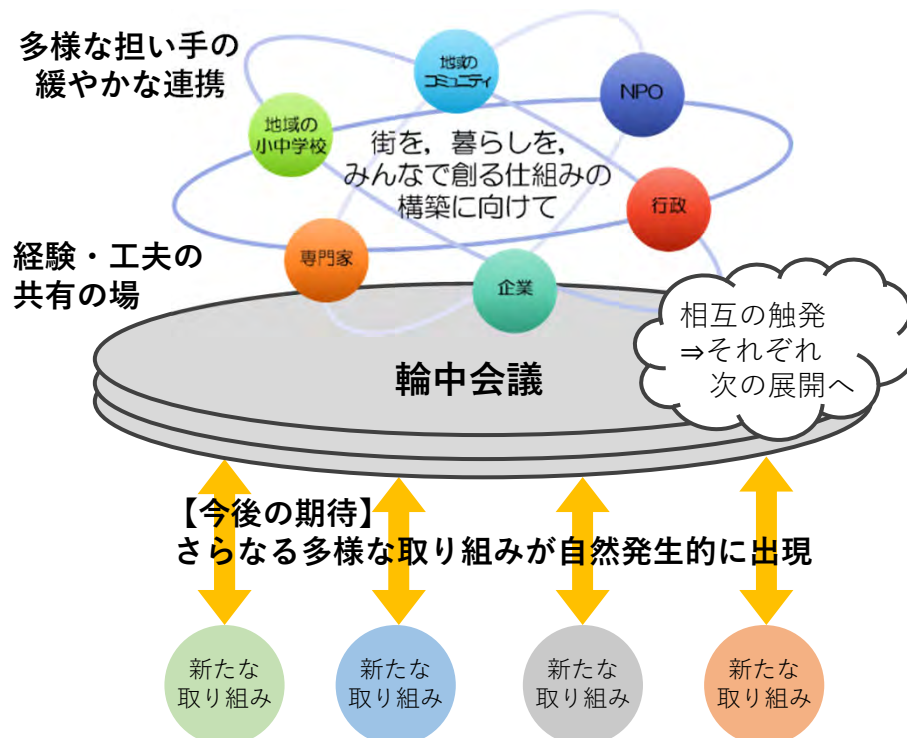


輪中会議

= 多様な主体によるまちづくり

多様な担い手の
緩やかな連携

経験・工夫の
共有の場

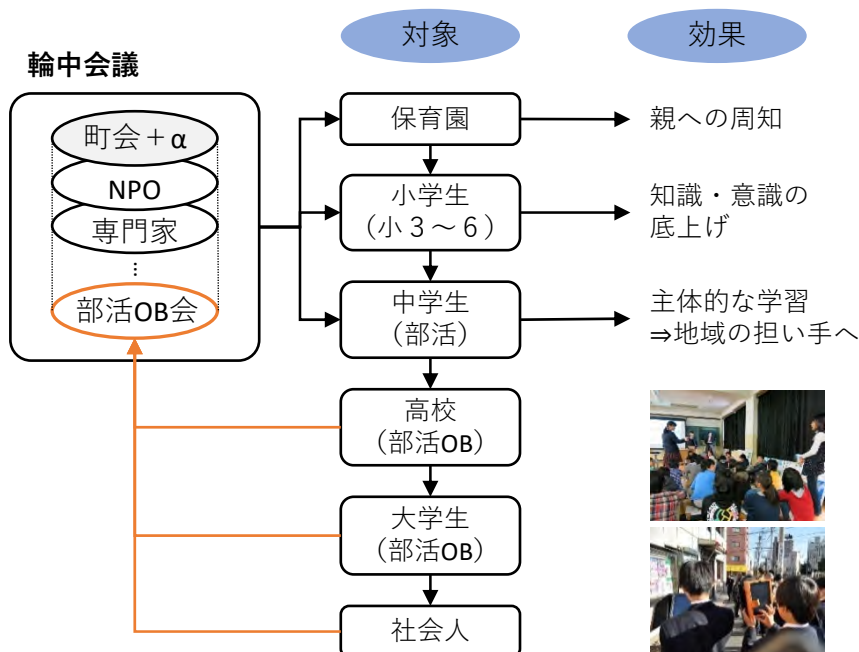


輪中会議を核とした連携による新たな活動・プロジェクトへの期待

世代を超えた持続性の創出

= 小学校への出前授業・中学校部活支援

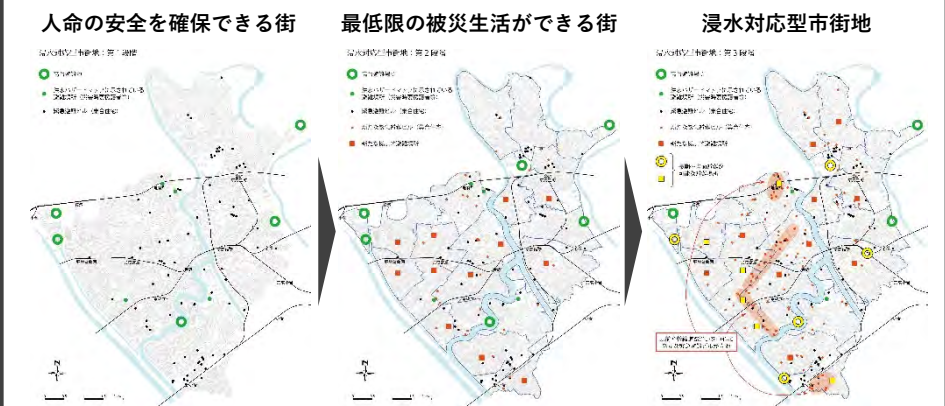
⇒ 地域の担い手を自律発展的に育む循環の構築



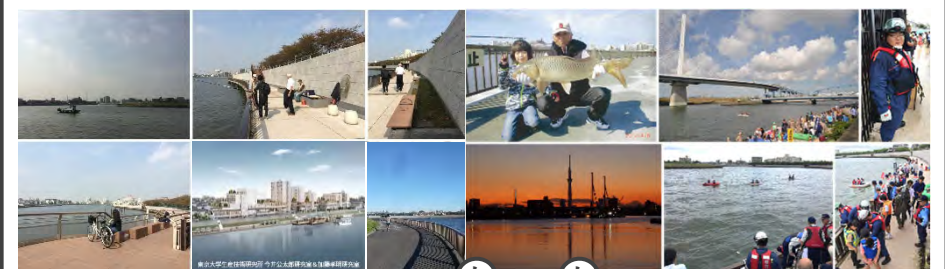
出前授業・部活支援が目指すべきあり方

浸水対応型市街地の検討

= 水害リスクと賢く共生する親水都市へ



浸水対応型市街地を形成する長期的戦略の検討



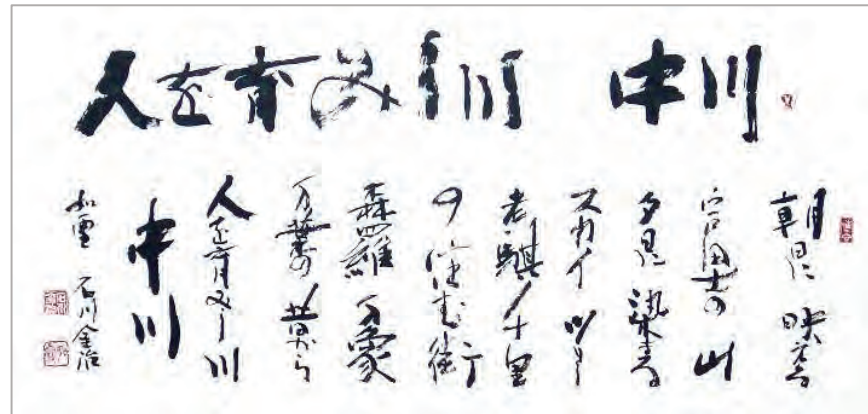
「浸水」 「親水」

新小岩北地区における活動の系譜～防災“も”まちづくり～

作成：塩崎由人・渡邊喜代美・南貴久
(NPOア！安全・快適街づくり)



NPO		町会	小中学校	PTA	福祉施設 民生児童委員	地域の有志	行政
2002 ?	2002年 NPOア！安全・快適街づくり設立	ワークショップ の主催	世代を超えた持続性の創出				
	2005 <u>機関誌「ア！安全・快適街づくりニュース」</u> 2005年 水位表示ポールの設置						
2006 ?	2007年11月 ボード乗船下船・親水体験 「葛西海浜公園へ行こう」	町会独自の取り組み 2009年11月 松戸市21世紀の森と広場への避難訓練 西新小岩3丁目公園での炊き出し訓練					2007年～洪水ハザードマップの配布（区） 
2009	2008年3月 「川から街を見る」  						
2010		避難用ボード使用訓練  	上平井中学校 地域防災ボランティア部の 取り組み（NPO・大学も支援） 小学校での 出前授業 	学習支援の連携			大規模水害対策検討委員会設置（区） 中川テラス開園（区） 都市計画マスタープランの改訂による 高台避難場所の位置づけ（区） 「事業継続計画作成のすすめ」 を作成（国）
2011	<u>ゼロメートル市街地協議会の運営</u> ・シンポジウムの企画 ・輪中会議の運営 <u>小中学校での出前講座</u>	水害も考慮した 避難所運営会議 					
2012		水害を想定した 避難訓練の実施 	2012年8月 第56回全国特別活動研 究協議大会にて発表 「水害の調査研究」  	ふたがみこどもまつり でのポート体験  	松上小学校への避難訓練 （たつみ保育園） 東京都認可保育園 BCP作成の義務化 アレルギーガイドライン 非常食アレルギー除去食 の購入 高齢者向けの防災講演会 水防法改正の説明会	水害時避難用高台整備勉強会 （西新小岩3丁目有志） <u>おれたちの朝旅</u>  	「水害時における民間集合住宅との 一時避難締結に係わるガイドライン」 を作成（国） 防災アプリ「天サイ！まなぶくん」 配信開始（区）  高台整備事例：東京理科大 葛飾キャンパス 1.5m程度の盛土を実施
2013		赤旗白旗救援訓練 					
2014		民間マンションとの 水害時一次協定締結 中学生と共同で防災訓練 スタンドパイプの練習会					洪水緊急避難建物の指定（区） 避難確保計画のひな型作成（区） 防災啓発DVDの作成（水害編）（区） タイムラインの検討（国） 洪水緊急避難建物への備蓄物資配備（区） 水害に強い建物を促進する街づくりルール検討中（区） 消防団へのゴムボートの貸与（区） 江東5区大規模水害対策協議会
2015							
2016		内閣府・災害避難カード ワークショップ 〔東新小岩7丁目町会、 内閣府、葛飾区、 NPO、大学〕 ↓ <u>“犠牲者ゼロ”の実現に 向けたワークショップ</u>	防災マップの作製 			勉強会から区への提言 ↓ 区からの回答の受理 	要配慮者利用施設を対象とした水害時の 避難計画作成支援（区） 新小岩公園の高台化へ（区） 内閣府・災害避難カードワークショップ 浸水に対応した街づくり検討会（区） “犠牲者ゼロ”の実現に 向けたワークショップ（区）
2017							
2018				地域住民と連携した 避難体験			「古井戸」の復元（区・都） ハザードマップの見直し（区）
2019	モザンビーク 研修生受入れ	<u>「古井戸」の活用</u> 説明板づくりWS （2019年11月）	東新小岩7丁目 市民消防隊 女性隊結成				
2020			広域避難訓練 マイタイムライン 台風19号での避難体験	子供たちの マイタイムライン づくり 出前授業副読本 作成（ver,1） 			
2021	Web 事務局会議						
2022							
2023							



書と作詞は石川金治。

「人を育みし川、中川」の詩文全体は、北新小岩地域を流れる、中川の豊かさを、いつも感じているので、その讃辞の詩。

この“老キ千里”の文言は、私達と一緒に活動の屋台骨を支えている人の顔を想像しやすい文言を探した結果です。

また作詞のもう一つの動機は、“事務局会議終了後、渡邊さんと塩崎さんと3人で、夕日の中のスカイツリーを見た時の感動が大きかったから、その感動が原動力となって、作詞をしました”と石川さんは語った。

そのとき渡邊が老驥、老驥とは、と問うたら、馬小屋に寝ていても志は千里にあり、老驥、老驥は個性あふれる表現という。

石川さんは千の風にのって逝ってしまったが書は今も生きている。中川があるかぎりしばらく表紙に登場いただく。

2016年、鈴木町会長、徳倉会長、石川理事長と惜別するも、3人の志は今も活動の中で生き、引き継がれた人たちによって新たな展開をしている。

「特定非営利活動法人 ア！安全・快適街づくり」
〒124-8535 東京都葛飾区西新小岩三丁目5番1号
大成ホールディングス株式会社内

メールアドレス: tegami@banktown.org
ホームページ: <http://www.banktown.org/>

■中川土手に生えた「つくし」を食べるためのレシピ

春の訪れを告げる食材として知られるつくし。葛飾区中川の土手でも、3月～4月上旬にかけて多くの人がつくし採りを楽しんでいます。おいしくつくしを食べるために、下処理の手順を紹介します。

1. 採取の際のポイント

穂先がまだ開いていないものを選ぶ



これは開ききったもの



10cm程度に切り根本は切り落とす



2. 洗浄と「はかま」取り

流水で丁寧に洗い、節の部分にある三角形の「はかま」を取る



爪を使ってひっかくと簡単に取れる



取り残しがないように確認する



3. アク抜き

鍋にたっぷりの湯を沸かし少々塩と酢を加え、つくしをいれる



再沸騰したら 20～30 秒茹でる



すぐに冷水に取って冷まし、水を変えながら数回すすぎアクを抜く



＜ポイント＞

つくしはアクが強いので、下処理は丁寧に行います。茹で時間は短時間にすることで、食感を残せますがお好みで調整してください。冷蔵庫で 2～3 日保存可能。冷凍保存も可能（下処理後、水気をよく切って冷凍庫へ）。冷凍保存する場合は、食べる前に解凍して水気を絞ると美味しく食べられます。

